

第1章 五所川原市の現況

1. 自然条件

1-1. 位 置

本市の五所川原・金木地域は、青森県津軽地域のほぼ中央に位置し、東は津軽山地の稜線を境に県都青森市・蓬田村と、西は岩木川を挟んでつがる市と、南は鶴田町・板柳町と、北は中泊町中里地域と接しており、本市の市浦地域は津軽地域の北西部に位置し、東は今別町・外ヶ浜町蟹田地域と、南はつがる市・中泊町中里地域と、北は中泊町小泊地域・外ヶ浜町三厩地域と接しており、西側には日本海が広がっています。

また、県都青森市へは東へ約 25 k m、津軽地方の中心都市である弘前市へは南に約 23 k mの位置にあります。

表 1-1 位置と面積

方 位	緯 度・経 度	広 ぼ う	海 抜	
最 東	東経 140° 33' 26"	五所川原市・金木地域	最 高	最 低
最 西	東経 140° 18' 20"	東西 15.50km—南北 31.05km	667.0m	3.3m
最 南	北緯 40° 43' 36"	市浦地域	面 積	
最 北	北緯 41° 7' 40"	東西 13.13km—南北 14.50km	404.56km ²	

※ 資料：平成 24 年 3 月刊 五所川原市統計書

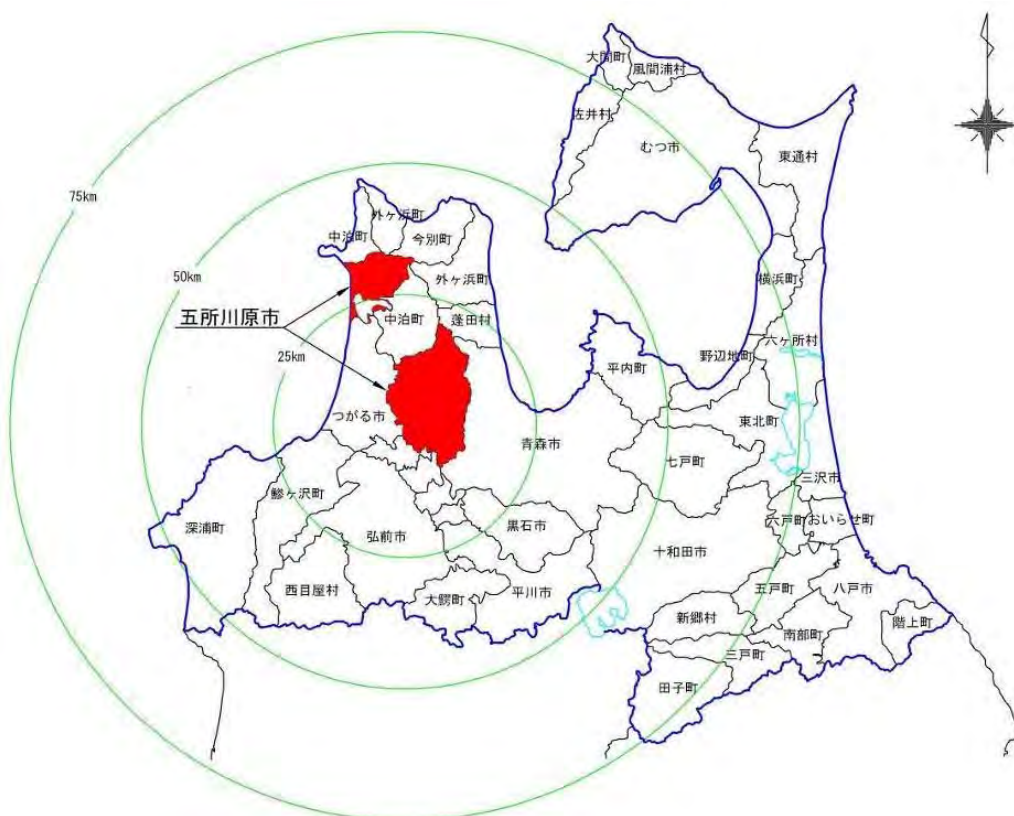


図 1-1 位 置 図

1-2. 地 勢

本市の五所川原・金木地区は、東側の標高約 400～600m級の山々が連なる津軽山地の稜線部から西側へ向かい、市域中央部付近の平野部に至るまで山地、丘陵地と続き、さらに本市の西側を南北に貫流する岩木川まで平野部が続いています。

山地及び丘陵地は広大な山林が広がり、平野部は岩木川や多数の河川からの恵みを受けた肥沃な土壌に水田地帯が形成され、これらの間には畑地や水田を維持するため池が点在しています。

また、市浦地域は、北側から東側にかけて大部分が山地で、西側は日本海に面し、南側には十三湖を擁した自然豊かな地域です。

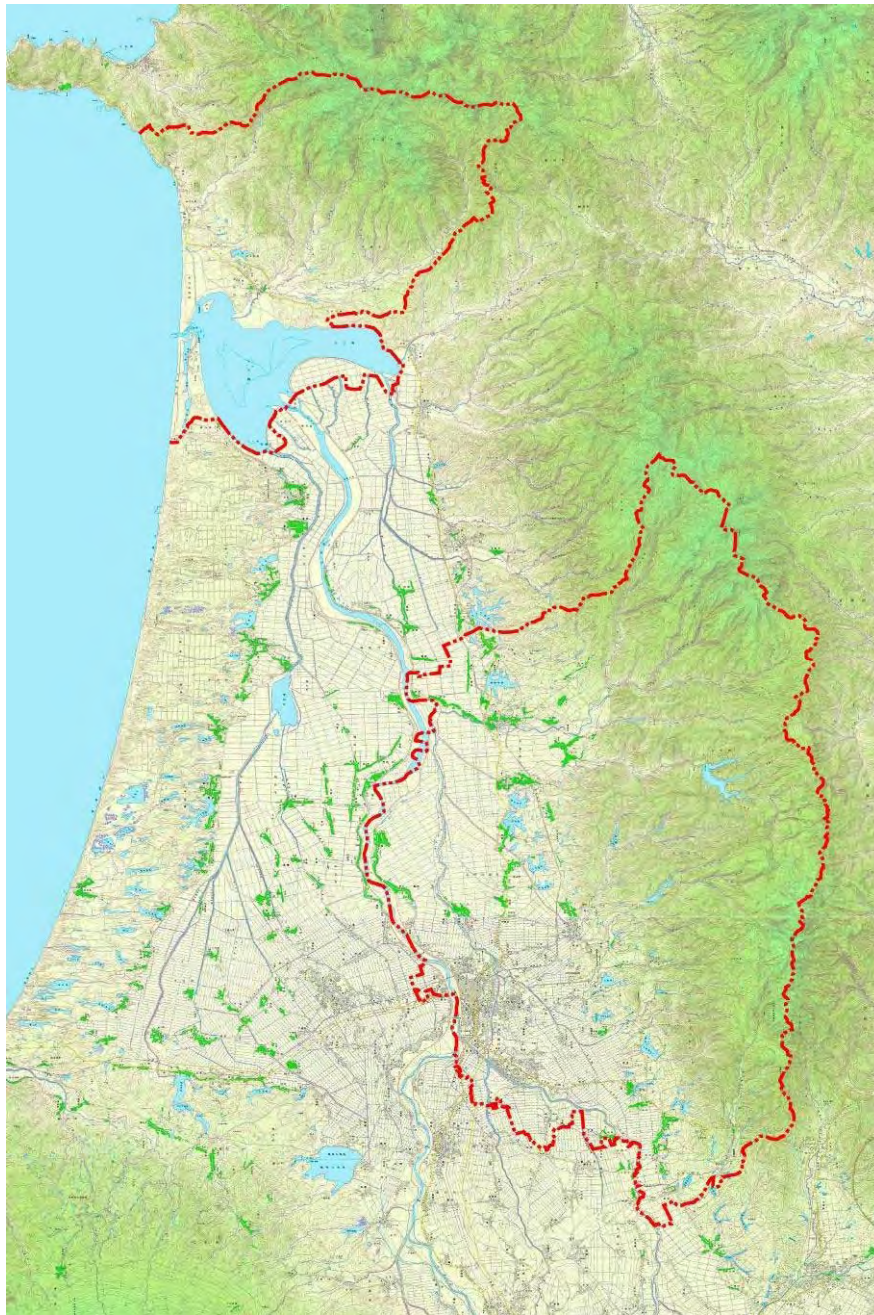


図 1-2 地 勢 図 (イメージ)

1-3. 気 候

本市の気候は、日本海側特有の気候を示しており、夏は梅雨やヤマセの影響が比較的少なく暑い、冬は季節風の影響で北西の風が強く、降雪も多くなっています。

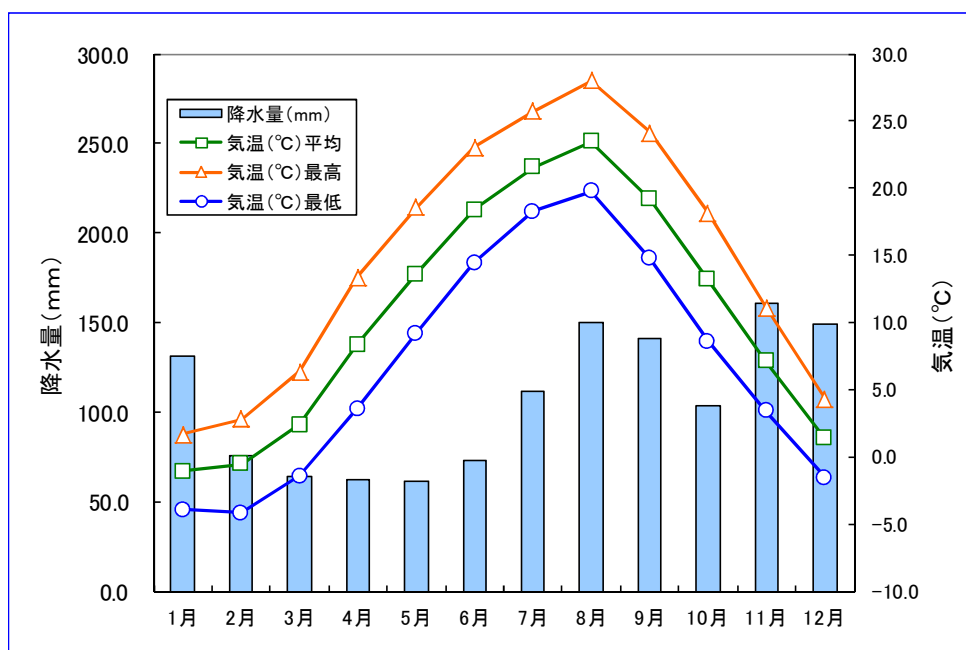
年間平均気温が10.6℃、最高気温が8月の28.0℃、最低気温が2月の-4.2℃で、夏季と冬季の温度差が約32℃となっており、年間降水量は1,283mmで、春季は比較的少ない状況となっています。

降雪は主に11月から3月に見られ、最深降雪深が76cmと雪深く、一旦降雪した雪が強い北西の季節風により再び舞い上がって吹き荒れる『地吹雪』が本市の冬の風物詩の一つとなっています。

表 1-2 五所川原市の気象

月	気温(℃)			降水量 (mm)	平均風速 (m/s)	日照時間 (h)	降雪量 (cm)	最深積雪 (cm)
	平均	最高	最低					
1	-1.1	1.7	-4.0	131	2.9	40	178	71
2	-0.6	2.8	-4.2	75	2.7	69	128	76
3	2.4	6.3	-1.5	64	2.9	117	78	54
4	8.4	13.4	3.6	62	2.6	174	2	6
5	13.6	18.5	9.2	62	2.3	183		
6	18.4	23.1	14.4	73	2.0	171		
7	21.5	25.7	18.2	112	1.9	136		
8	23.4	28.0	19.8	150	1.7	171		
9	19.2	24.1	14.8	141	1.7	158		
10	13.2	18.2	8.6	103	2.1	146		
11	7.1	11.1	3.4	161	2.6	76	12	8
12	1.4	4.3	-1.6	149	2.9	41	115	38
計(平均)	10.6	14.8	6.7	1,283	2.4	1,482	512	

※ 資料：気象庁（五所川原気象観測所）



※ 資料：気象庁（五所川原気象観測所）

図 1-3 五所川原市の気象

1-4. 文化財及び風景・景観資源

(1) 文化財等の指定状況

本市には 6 件の国指定文化財、7 件の県指定文化財をはじめとして以下に示す数多くの文化財が国、県、市により指定されています。

表 1-3 国県指定等文化財

区分	種別	指定年月日	名称	員数	所在地	所有者及び保護団体
国	重要文化財 (建物)	昭和53年 1月21日	旧平山家住宅 主屋、表門	2棟	五所川原市大字湊字千鳥144-1	五所川原市
		平成16年 12月10日	旧津島家住宅主屋、文庫蔵、 中の蔵、米蔵、煉瓦塀	6棟	五所川原市金木町朝日山412-1	五所川原市
	重要無形民俗 文化財	昭和59年 1月21日	岩木山の登拝行事		青森市、弘前市、黒石市、五所川原 市、東津軽郡、西津軽郡、中津軽 郡、南津軽郡、北津軽郡	お山参詣保存会
	史跡	平成16年 9月30日	五所川原須恵器窯跡		五所川原市大字持子沢字隠川	五所川原市ほか
		平成17年 7月14日	十三湊遺跡 ※平成18年7月28日（追加指定） ※平成19年7月26日（追加指定）		五所川原市十三	五所川原市ほか
	特別天然 記念物	昭和30年 2月15日	カモンシカ ※昭和9年5月1日（天然物指定）		青森県ほか29都道府県	青森県ほか29都道府県
県	県重宝 (建築物)	平成 6年 1月21日	飯詰八幡宮本殿	1棟	五所川原市大字飯詰字福泉148-1	飯詰八幡宮
	県重宝 (工芸品)	昭和37年 11月16日	梵鐘	1口	五所川原市大字飯詰字福泉224	長円寺
	県無形民俗 文化財	昭和37年 1月12日	浅井獅子(鹿)踊		五所川原市大字浅井	浅井獅子倶楽部
		昭和44年 12月15日	嘉瀬奴踊		五所川原市金木町嘉瀬	嘉瀬奴踊保存会
		昭和56年 9月26日	金木さなぶり荒馬踊		五所川原市金木町朝日山	金木さなぶり荒馬保存会
	記念物 (県天然記念 物)	昭和35年 3月26日	十三湖の白鳥（カモ科）		五所川原市十三湖	五所川原市教育委員会
		昭和55年 1月24日	金木町玉鹿石		五所川原市金木町喜良市小田川国有林	五所川原市教育委員会
市	有形文化財	平成13年 3月 2日	十三・湊迎寺の五輪塔		五所川原市十三1-295 （五所川原市市浦歴史民俗資料館内に展示）	十三山湊迎寺
		平成13年 3月 2日	相内・蓮華庵の板碑		五所川原市相内47	蓮華庵代表
	有形文化財 (建造物)	平成12年 11月 2日	楠美家住宅		五所川原市大字持子沢字隠川695-4	五所川原市
		平成13年 12月20日	妙竜寺七面大明神宮殿		五所川原市大字飯詰字福泉29	日蓮宗高橋山妙竜寺
	有形文化財 (史跡)	昭和57年 8月10日	川倉養の河原地蔵尊		五所川原市金木町川倉七夕野426-1	川倉養野川原地蔵尊講中
		平成12年 11月 2日	毛内翁土功之碑		五所川原市字錦町1-5	久須志神社総代長
		平成12年 11月 2日	伊勢海利助追慕碑		五所川原市字錦町1-5	久須志神社総代長
	無形文化財	平成14年 2月28日	相内の坊様踊り		五所川原市相内岩井85	相内民俗芸能保存会
		平成14年 2月28日	相内の虫送り		五所川原市相内	相内民俗芸能保存会
		平成14年 2月28日	十三の砂山踊り		五所川原市十三	十三の砂山踊り保存会
	無形文化財 (民俗)	平成 4年 6月 8日	虫おくり		五所川原市	五所川原市虫おくり保存会
		平成13年 12月20日	五所川原甚句		五所川原市	五所川原甚句保存会
		平成22年 12月22日	五所川原立倭武多		五所川原市字大町21-1	五所川原市
	天然記念物	昭和50年 8月27日	ホロムイイチゴ		五所川原市大字長富（二ノ沢溜池）	（管）浮き島を守る会
		平成13年 3月 2日	磯松の一本松		五所川原市磯松磯野268-1	個人
	種別		指定年月日	名称		所在地
国登録有形文化財 （登録）		平成20年 3月19日	旧西沢家住宅主屋		五所川原市金木町朝日山441-5ほか	個人

※ 資料：おおりの文化財(平成22年11月1日現在)
教育委員会資料

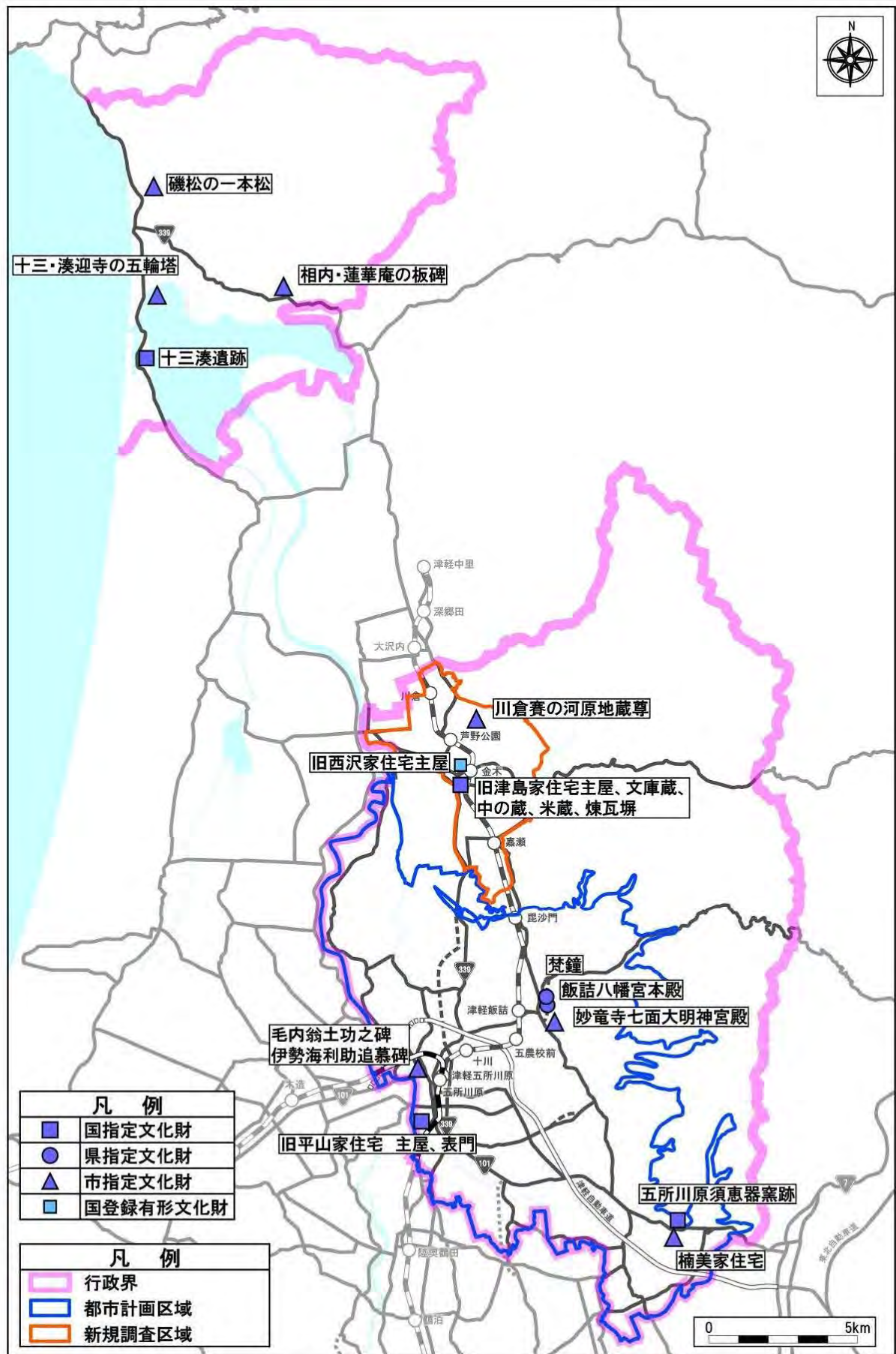


図 1-4 文化財位置図

(2) 風景・景観資源等の分布状況

本市には、12 箇所の自然景観資源と 2 箇所の特定植物群落があり、自然景観資源のうち滝が五所川原地域と金木地域に各 1 箇所分布し、海成段丘が市域の中央部を南北に縦断している他は、市浦地域に分布しています。

また、特定植物群落は、金木地域と市浦地域に各 1 箇所分布しています。

表 1-4 自然景観資源

No.	類型	名称
1	非火山性孤峰	靄山
2	滝	藤滝
3		不動ノ滝
4	湖・沼	十三湖
5		前潟
6		明神沼
7	海成段丘	浪岡段丘
8		相内段丘
9		金木段丘
10	砂洲	五月女范原
11		十三海岸
12	砂丘	屏風山砂丘

※ 資料：第 3 回自然景観資源調査（環境省）

表 1-5 特定植物群落

No.	名称	選定基準理由
1	袴腰岳の風衝地植物群落	砂丘、断崖地、塩沼地、湖沼、河川、湿地、高山、石灰岩地等の特殊な立地に特有な植物群落または個体群で、その群落の特徴が典型的であるため
2	靄山のカシワ林	郷土景観を代表する植物群落で、特にその群落の特徴が典型的なもので、かつ乱獲その他人為の影響によって、極端に少なくなる恐れがあるため

※ 資料：第 3 回特定植物群落調査（環境省）

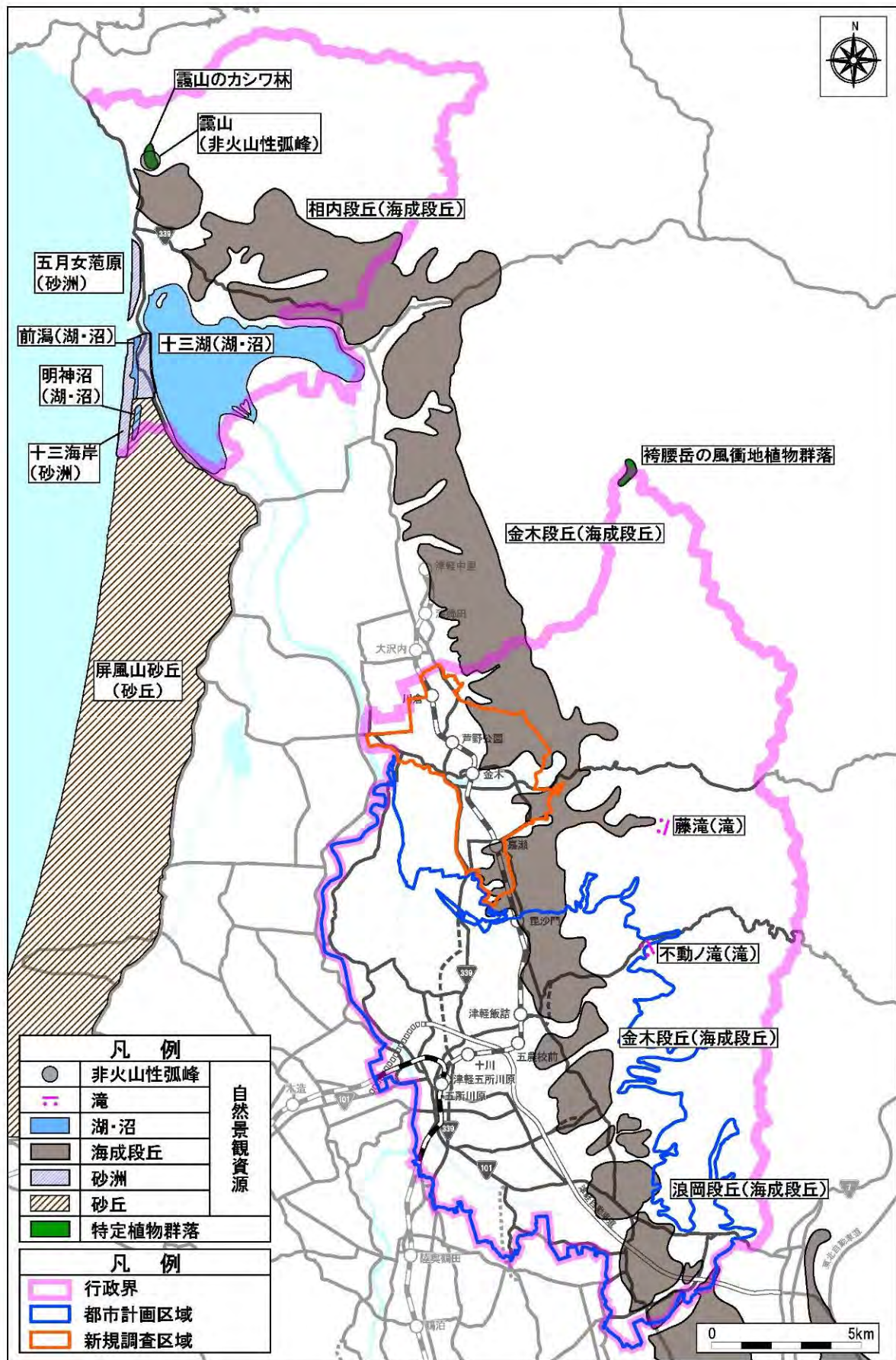


図 1-5 風景・自然景観

1-5. 沿 革

本市は、津軽藩政時代の五所川原新田開拓（1665 年）から本格的な開拓が始まった都市であり、岩木川の水運による米の集散地として今日の五所川原市発展の基礎となる 15 ヶ村が誕生しました。

その後、明治 11 年に北津軽郡役所がおかれ、明治 31 年に町制を施行、さらに、明治 40 年の乾橋完成、大正 7 年の陸奥鉄道開通、昭和 5 年の津軽鉄道開通等を経て、農海産物等を中心とした流通拠点として発展し、「商都五所川原」が形成され、昭和 29 年に五所川原町を中心に周辺 6 村を合併して市制を施行し、昭和 31 年の編入により旧五所川原市の行政区域が形成されました。

また、明治 22 年の町村制施行にともない成立した、北津軽郡金木村・嘉瀬村・喜良市村の 3 村が昭和 30 年に合併し、新町制による金木町が誕生し、同様に明治 22 年に発足した北津軽郡相内村・脇元村と西津軽郡十三村の 3 村が昭和 30 年に合併し、市浦村が誕生しました。

平成 17 年 3 月 28 日に旧五所川原市・金木町・市浦村の 3 市町村が合併し、新市制による新しい五所川原市が誕生しました。

現在の都市形態は、山間丘陵部においては基幹産業である農業を背景とした中世からの集落形態が南北に存続しつつ、都市部においては、西北津軽地域の商業・流通の拠点として発展するとともに、工業団地を中心とした内陸型工業都市の性格を維持しています。

平成 19 年には、高規格道路津軽自動車道「浪岡五所川原道路」が供用開始となり、主要な幹線道路の骨格がほぼ確立されつつあります。

2. 人 口

2-1. 人口・世帯数の動向

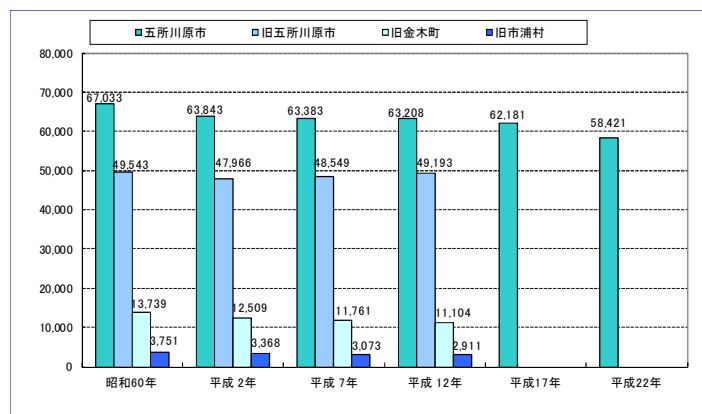
本市の人口は、昭和60年の67,033人から平成22年の58,421人まで減少しています。

また、世帯数は、昭和60年の19,357世帯から平成2年で若干減少し、その後、平成17年の22,067世帯までは増加し、平成22年には21,277世帯と減少しています。

表 1-6 人口・世帯数の推移

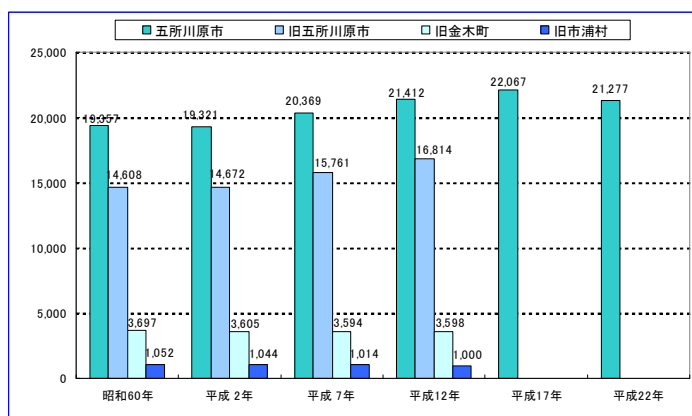
		昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人口	五所川原市	67,033	63,843	63,383	63,208	62,181	58,421
	旧五所川原市	49,543	47,966	48,549	49,193		
	旧金木町	13,739	12,509	11,761	11,104		
	旧市浦村	3,751	3,368	3,073	2,911		
世帯数	五所川原市	19,357	19,321	20,369	21,412	22,067	21,277
	旧五所川原市	14,608	14,672	15,761	16,814		
	旧金木町	3,697	3,605	3,594	3,598		
	旧市浦村	1,052	1,044	1,014	1,000		

※ 資料：国勢調査（総務省統計局）



※ 資料：国勢調査（総務省統計局）

図 1-6 人口の推移



※ 資料：国勢調査（総務省統計局）

図 1-7 世帯数の推移

2-2. 人口構成

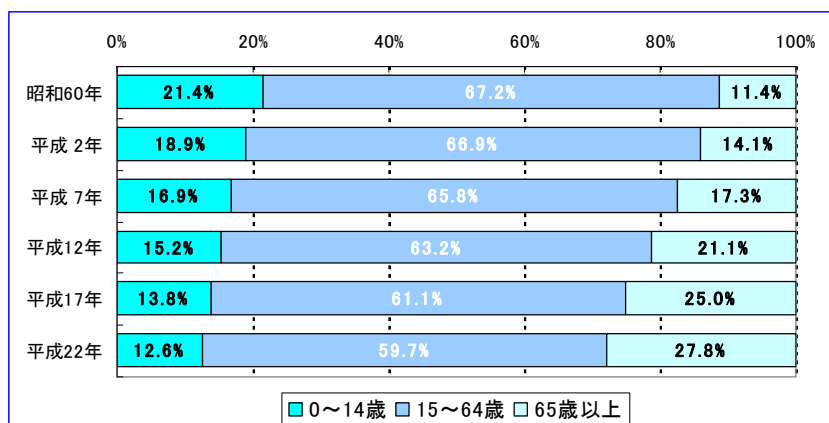
本市の昭和 60 年から平成 22 年までの人口構成の推移は、65 歳以上の高齢者層の増加と 15 歳未満の年齢層の減少が顕著であり、中間層も減少傾向を示しています。

また、昭和 60 年と平成 22 年の年齢別人口を比較すると、54 歳以下の各層で減少し、55 歳以上の各層で増加しています。

表 1-7 年齢別人口

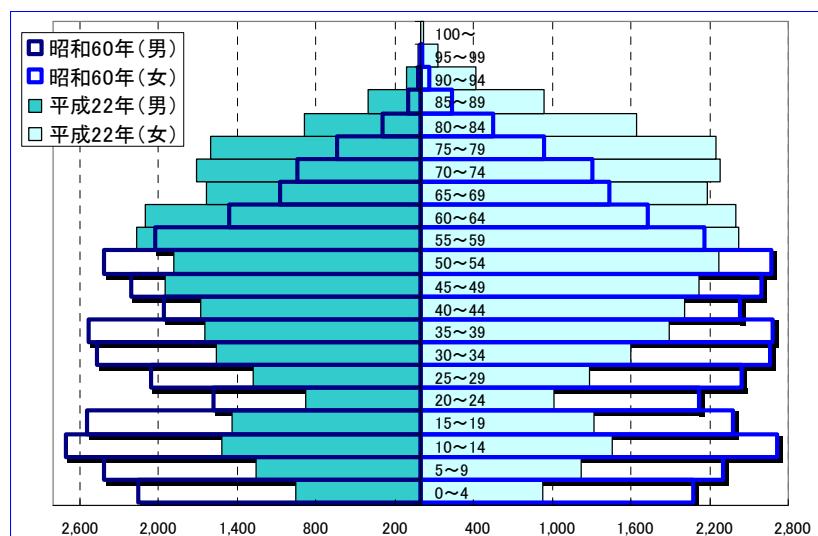
	0～14		15～64		65～		年齢 不詳	計
	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比		
昭和60年	14,343	21.4%	45,074	67.2%	7,614	11.4%	2	67,033
平成 2年	12,098	18.9%	42,729	66.9%	8,984	14.1%	32	63,843
平成 7年	10,705	16.9%	41,683	65.8%	10,995	17.3%	0	63,383
平成12年	9,636	15.2%	39,974	63.2%	13,359	21.1%	239	63,208
平成17年	8,610	13.8%	38,014	61.1%	15,553	25.0%	4	62,181
平成22年	7,334	12.6%	34,861	59.7%	16,226	27.8%	0	58,421

※ 資料：国勢調査（総務省統計局）



※ 資料：国勢調査（総務省統計局）

図 1-8 年齢別人口



※ 資料：国勢調査（総務省統計局）

図 1-9 年齢階層（5歳毎）別人口の比較（昭和60年、平成22年）

2-3. 人口動態

(1) 自然・社会動態

本市の自然動態を出生・死亡別にみると、出生は減少傾向を示し、死亡は増加傾向を示しており、増減においては平成17年から死亡が出生を上回り減少に転じています。

また、社会動態を転入・転出別にみると、転入・転出とも減少傾向を示しており、増減において、平成7年は転入が転出を上回り増加を示していますが、その他は転出が転入を上回り減少を示しています。

表 1-8 自然動態

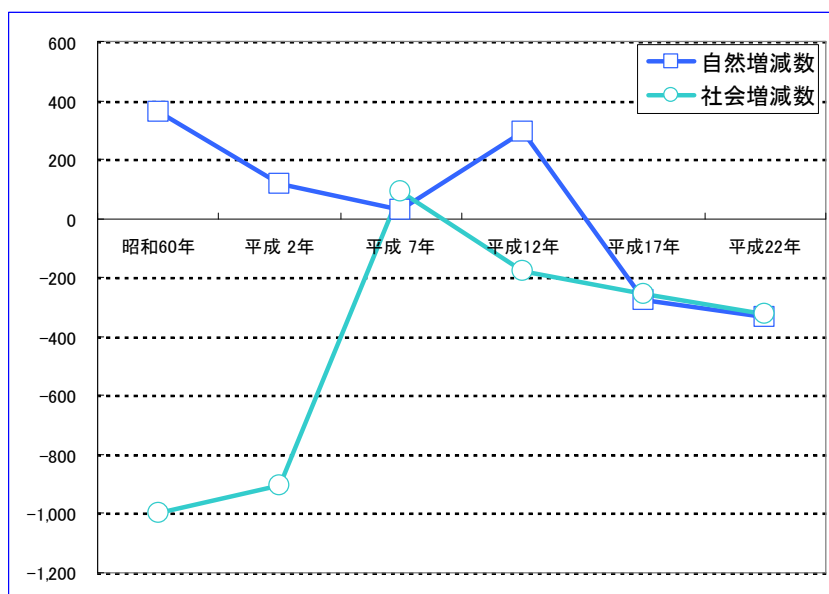
年次	出生			死亡			増減		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
昭和60年	832	436	396	472	237	235	360	199	161
平成2年	671	337	334	551	319	232	120	18	102
平成7年	576	296	280	545	305	240	31	-9	40
平成12年	550	286	264	258	141	117	292	145	147
平成17年	444	235	209	723	388	335	-279	-153	-126
平成22年	380	200	180	712	372	340	-332	-172	-160

※ 資料：青森県人口移動統計調査、青森県の推計人口年報

表 1-9 社会動態

年次	転入			転出			増減		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
昭和60年	2,871	1,529	1,342	3,870	2,001	1,869	-999	-472	-527
平成2年	2,873	1,477	1,396	3,777	1,972	1,805	-904	-495	-409
平成7年	2,724	1,394	1,330	2,630	1,343	1,287	94	51	43
平成12年	2,133	1,092	1,041	2,312	1,139	1,173	-179	-47	-132
平成17年	1,931	1,011	920	2,185	1,151	1,034	-254	-140	-114
平成22年	1,512	795	717	1,834	945	889	-322	-150	-172

※ 資料：青森県人口移動統計調査、青森県の推計人口年報



※ 資料：青森県人口移動統計調査、青森県の推計人口年報

図 1-10 自然・社会動態

(2) 通勤・通学動態

本市の通勤動態は、これまで流出者を流入者が上回っていますが、その差は平成2年の1,976人から減少傾向にあり、平成22年では435人となっています。

近年の通勤の主な流出先は、つがる市・青森市・弘前市で、主な流入先は、つがる市・鶴田町・中泊町となっています。

また、通学動態も、これまでは流出者を流入者が上回っていますが、その差は平成7年の1,341人から減少傾向にあり、平成22年では633人となっています。

近年の通学の主な流出先は、つがる市・弘前市・青森市で、主な流入先は、つがる市・鶴田町・中泊町となっており、通勤・通学とも隣接するつがる市との交流が密接となっています。

表 1-10 通勤動態

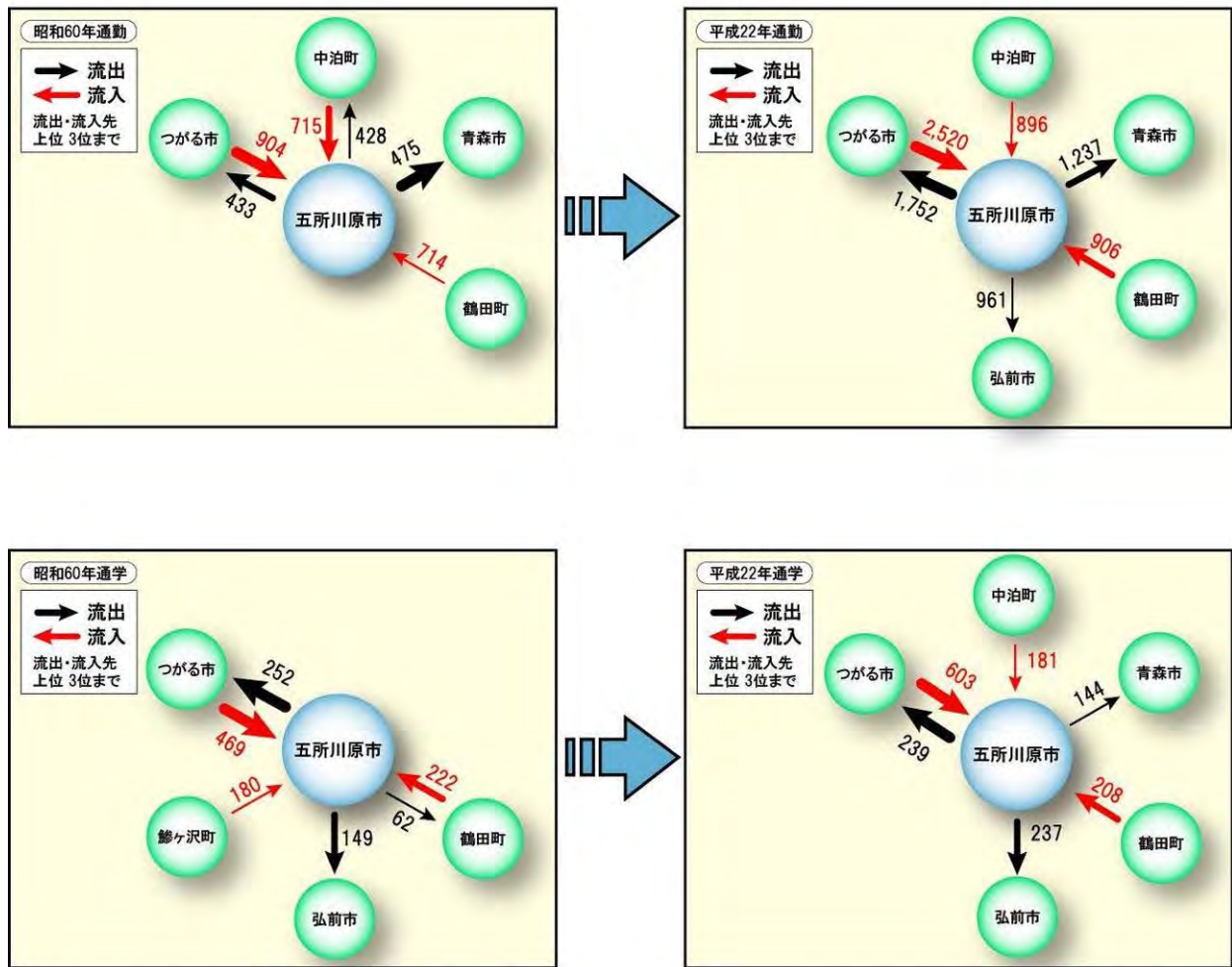
	常住地 による	流出		従業地 による	流入		従／常 就業者 比率	流出先						流入先						
								流出率第1位		流出率第2位		流出率第3位		流入率第1位		流入率第2位		流入率第3位		
		就業者数	就業者数	流出率	就業者数	就業者数		流入率	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数
		(人)	(人)	(%)	(人)	(人)		(%)	(%)		(人)		(人)		(人)		(人)		(人)	
S60	31,348	3,421	10.9%	33,167	5,240	15.8%	105.8%	青森市	475	つがる市	433	中泊町	428	つがる市	904	中泊町	715	鶴田町	714	
H2	29,916	3,998	13.4%	31,892	5,974	18.7%	106.6%	青森市	545	つがる市	418	弘前市	366	つがる市	1,082	中泊町	777	鶴田町	765	
H7	30,362	5,393	17.8%	31,960	6,991	21.9%	105.3%	つがる市	1,037	青森市	766	鶴田町	446	つがる市	1,641	鶴田町	973	中泊町	432	
H12	30,101	6,630	22.0%	31,355	7,884	25.1%	104.2%	つがる市	1,288	青森市	891	鶴田町	663	つがる市	1,282	中泊町	1,044	鶴田町	978	
H17	27,868	6,000	21.5%	28,531	6,663	23.4%	102.4%	つがる市	1,964	青森市	1,136	弘前市	827	つがる市	2,548	鶴田町	956	中泊町	885	
H22	25,832	6,300	24.4%	26,446	6,735	25.5%	102.4%	つがる市	1,752	青森市	1,237	弘前市	961	つがる市	2,520	鶴田町	906	中泊町	896	

※ 資料：国勢調査（総務省統計局）

表 1-11 通学動態

	当該都市に			当該都市に			通／常	流出先						流入先									
	常住する	流出		通学する	流入			通学者	流出率第1位		流出率第2位		流出率第3位		流入率第1位		流入率第2位		流入率第3位				
		通学者数	通学者数		流出率	通学者数			通学者数	流入率	比率	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数	市町村名	流出者数	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数	市町村名	流入者数
		(人)	(人)		(%)	(人)			(人)	(%)	(%)		(人)		(人)		(人)		(人)		(人)		(人)
S60	4,230	957	22.6%	5,443	2,170	39.9%	128.7%	つがる市	252	弘前市	149	鶴田町	62	つがる市	469	鶴田町	222	鯉ヶ沢町	180				
H2	3,914	1,122	28.7%	5,199	2,407	46.3%	132.8%	つがる市	313	弘前市	177	板柳町	92	つがる市	553	鶴田町	220	板柳町	173				
H7	3,510	973	27.7%	11,254	2,314	20.6%	320.6%	つがる市	205	弘前市	192	青森市	103	つがる市	444	中泊町	260	鶴田町	232				
H12	3,165	877	27.7%	8,996	2,169	24.1%	284.2%	弘前市	185	つがる市	171	青森市	105	つがる市	443	中泊町	239	鶴田町	221				
H17	2,780	698	25.1%	3,456	1,374	39.8%	124.3%	つがる市	231	弘前市	222	青森市	118	つがる市	604	中泊町	233	鶴田町	165				
H22	2,648	737	27.8%	3,312	1,370	41.4%	125.1%	つがる市	239	弘前市	237	青森市	144	つがる市	603	鶴田町	208	中泊町	181				

※ 資料：国勢調査（総務省統計局）



※ 資料：国勢調査（総務省統計局）

図 1-11 通勤・通学動態（上位3位までの流出・流入先、図中数値の単位：人）

3. 産 業

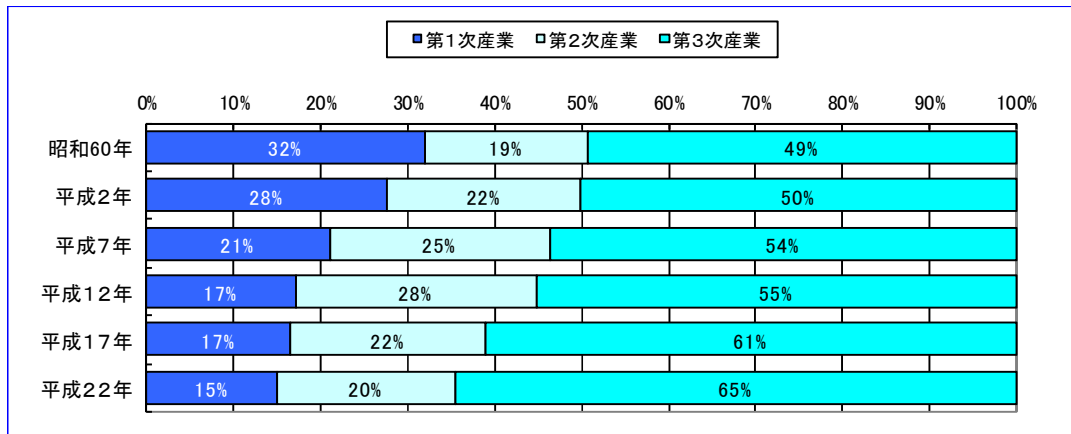
3-1. 産業構造

産業大分類別の就業者比率をみると、第1次産業は昭和60年の32%から平成22年には15%に概ね半減する著しい減少を示し、第2次産業は昭和60年の19%から平成12年までは28%と増加していますが、平成22年には20%と減少しています。

第3次産業は昭和60年の49%から平成22年には65%と増加しています。

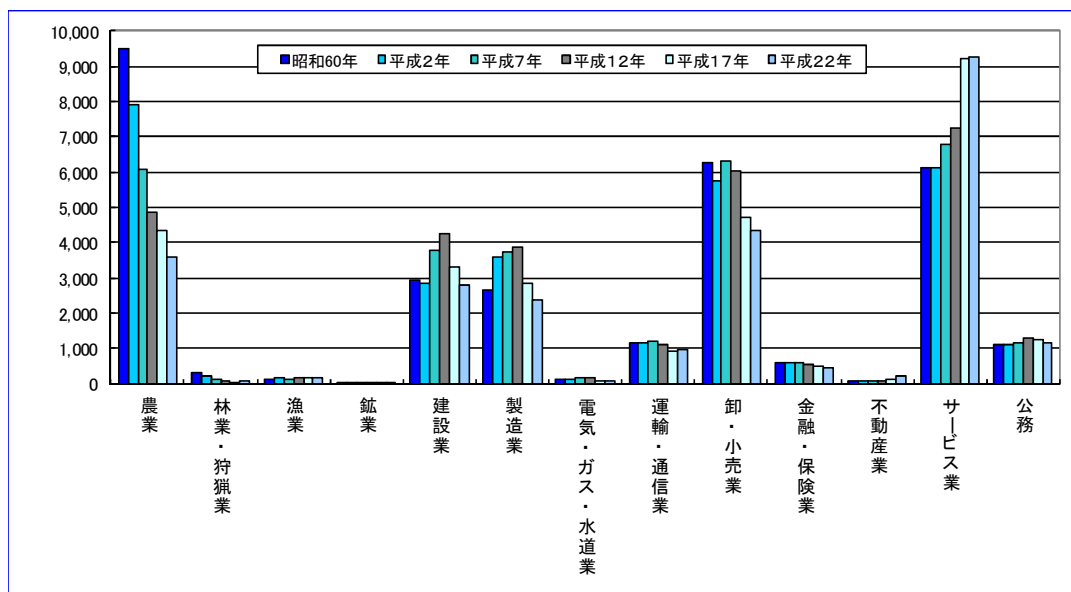
また、就業者数をみると、昭和60年に9,511人と最も多かった農業就業者の減少が著しく、平成22年には3,607人と半数以下に減少しています。サービス業は昭和60年の6,131人から平成22年には9,263人と増加しており、平成22年では最も従業者数が多い分野となっています。

このほか昭和60年と平成22年の比較では、第1次産業で漁業・水産養殖業が、第3次産業で不動産業・公務の就業者数が増加しています。



※ 資料：国勢調査（総務省統計局）

図 1-12 産業大分類別就業者比率の推移



※ 資料：国勢調査（総務省統計局）

図 1-13 産業中分類別就業者比率の推移

表1-12 産業大分類別就業者数及び比率の推移

	昭和60年		平成2年		平成7年	
	就業者数	構成比	就業者数	構成比	就業者数	構成比
第1次産業合計	9,954	31.8%	8,265	27.6%	6,365	21.0%
A. 農業	9,511	30.4%	7,893	26.4%	6,107	20.1%
B. 林業・狩猟業	302	1.0%	213	0.7%	137	0.5%
C. 漁業・水産養殖業	141	0.5%	159	0.5%	121	0.4%
第2次産業合計	5,852	18.7%	6,661	22.3%	7,704	25.4%
D. 鉱業	40	0.1%	24	0.1%	23	0.1%
E. 建設業	2,937	9.4%	2,857	9.6%	3,769	12.4%
F. 製造業	2,644	8.4%	3,597	12.0%	3,724	12.3%
第3次産業合計	15,512	49.5%	14,969	50.1%	16,264	53.6%
G. 電気・ガス・水道業	143	0.5%	151	0.5%	159	0.5%
H. 運輸・通信業	1,169	3.7%	1,159	3.9%	1,187	3.9%
I. 卸売業・小売業	6,291	20.1%	5,747	19.2%	6,296	20.8%
J. 金融・保険業	592	1.9%	616	2.1%	579	1.9%
K. 不動産業	86	0.3%	78	0.3%	77	0.3%
L. サービス業	6,131	19.6%	6,124	20.5%	6,803	22.4%
M. 公務	1,100	3.5%	1,094	3.7%	1,163	3.8%
合計	31,318	100.0%	29,895	100.0%	30,333	100.0%
N. 分類不能の産業	30	0.1%	21	0.1%	29	0.1%
	平成12年		平成17年		平成22年	
	就業者数	構成比	就業者数	構成比	就業者数	構成比
第1次産業合計	5,136	17.1%	4,596	16.6%	3,833	15.0%
A. 農業	4,887	16.3%	4,373	15.8%	3,607	14.1%
B. 林業・狩猟業	84	0.3%	56	0.2%	62	0.2%
C. 漁業・水産養殖業	165	0.5%	167	0.6%	164	0.6%
第2次産業合計	8,327	27.7%	6,196	22.4%	5,231	20.5%
D. 鉱業	30	0.1%	11	0.0%	17	0.1%
E. 建設業	4,242	14.1%	3,325	12.0%	2,822	11.0%
F. 製造業	3,861	12.8%	2,860	10.3%	2,392	9.4%
第3次産業合計	16,587	55.2%	16,922	61.1%	16,501	64.5%
G. 電気・ガス・水道業	158	0.5%	103	0.4%	102	0.4%
H. 運輸・通信業	1,127	3.8%	935	3.4%	959	3.8%
I. 卸売業・小売業	6,059	20.2%	4,747	17.1%	4,339	17.0%
J. 金融・保険業	566	1.9%	493	1.8%	469	1.8%
K. 不動産業	82	0.3%	153	0.6%	219	0.9%
L. サービス業	7,273	24.2%	9,218	33.3%	9,263	36.2%
M. 公務	1,322	4.4%	1,273	4.6%	1,150	4.5%
合計	30,050	100.0%	27,714	100.0%	25,565	100.0%
N. 分類不能の産業	51	0.2%	154	0.6%	267	1.0%

※ 資料：国勢調査（総務省統計局）

3-2. 農 業

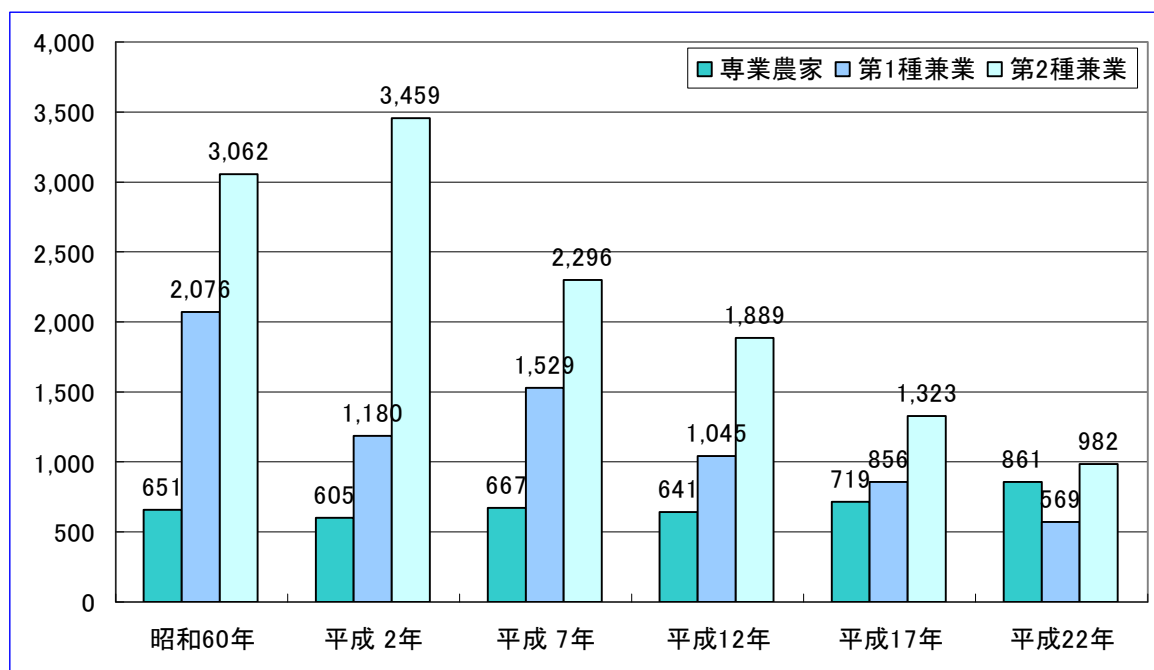
(1) 農家戸数の推移

農家戸数は昭和 60 年以降減少しており、経営内容別には専業農家数が昭和 60 年から平成 22 年にかけて多少の増減を繰り返しながら増加しましたが、第 1 種兼業農家数が昭和 60 年の 2,076 戸から平成 22 年の 569 戸と約 1/4 に、第 2 種兼業農家数が昭和 60 年の 3,062 戸から平成 22 年の 982 戸と約 1/3 に激減しています。

表 1-13 農家戸数の推移

	総農家数	専業農家	兼業農家	第1種兼業	第2種兼業
昭和60年	5,789	651	5,138	2,076	3,062
平成 2年	5,244	605	4,639	1,180	3,459
平成 7年	4,492	667	3,825	1,529	2,296
平成12年	3,954	641	2,934	1,045	1,889
平成17年	3,410	719	2,179	856	1,323
平成22年	2,912	861	1,551	569	982

※ 資料：農林業センサス



※ 資料：農林業センサス

図 1-14 農家戸数の推移

(2) 経営規模別農家戸数

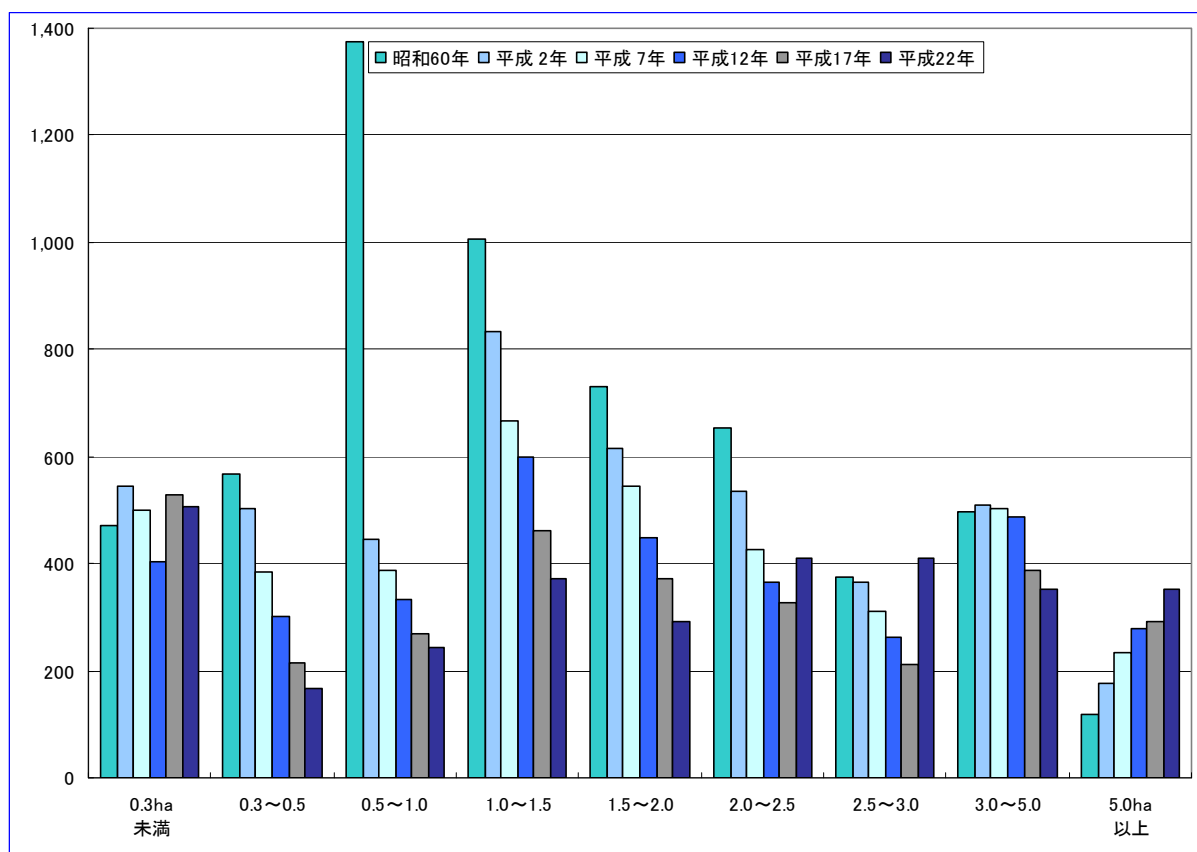
経営規模別の農家数は、昭和60年には0.5～1.0haが最も多く1,373戸、次いで1.0～1.5haの1,005戸、1.5～2.0haの732戸、2.0～2.5haの652戸となっており、比較的中規模の農家が多い状況でした。

平成22年の農家数は、0.3ha未満が増加し506戸と最も多く、次いで0.5～1.0haの461戸ですが、戸数は約1/3になっており、その他の経営規模も減少しています。

表 1-14 経営規模別農家戸数の推移

年次	総農家数	0.3ha 未満	0.3 ～ 0.5	0.5 ～ 1.0	1.0 ～ 1.5	1.5 ～ 2.0	2.0 ～ 2.5	2.5 ～ 3.0	3.0 ～ 5.0	5.0ha 以上	例外 規定
昭和60年	5,789	471	567	1,373	1,005	732	652	376	496	117	0
平成2年	5,244	544	504	1,163	833	616	534	365	510	175	0
平成7年	4,492	500	384	925	666	546	425	310	502	234	0
平成12年	3,954	403	300	811	599	448	364	263	488	278	0
平成17年	3,410	528	214	619	460	372	327	210	389	291	0
平成22年	2,912	506	165	461	372	293	409		354	352	0

※ 資料：農林業センサス



※ 資料：農林業センサス

図 1-15 経営規模別農家戸数の推移

(3) 農業生産額

農業生産額は、米が最も多く昭和61年の約120億円をピークに減少し、平成18年には約65億円と約1/2程度に激減しています。

次いで生産額が多いのは果実で、昭和56年の約27億円から平成3年まで一旦増加し約30億円となりますが、そこから平成13年まで減少し、平成18年には再び増加して約33億円となっています。

第3位の野菜は、昭和56年の約1億円から平成8年まで一旦増加し約15億円となりますが、その後減少し平成18年には約12億円となっています。

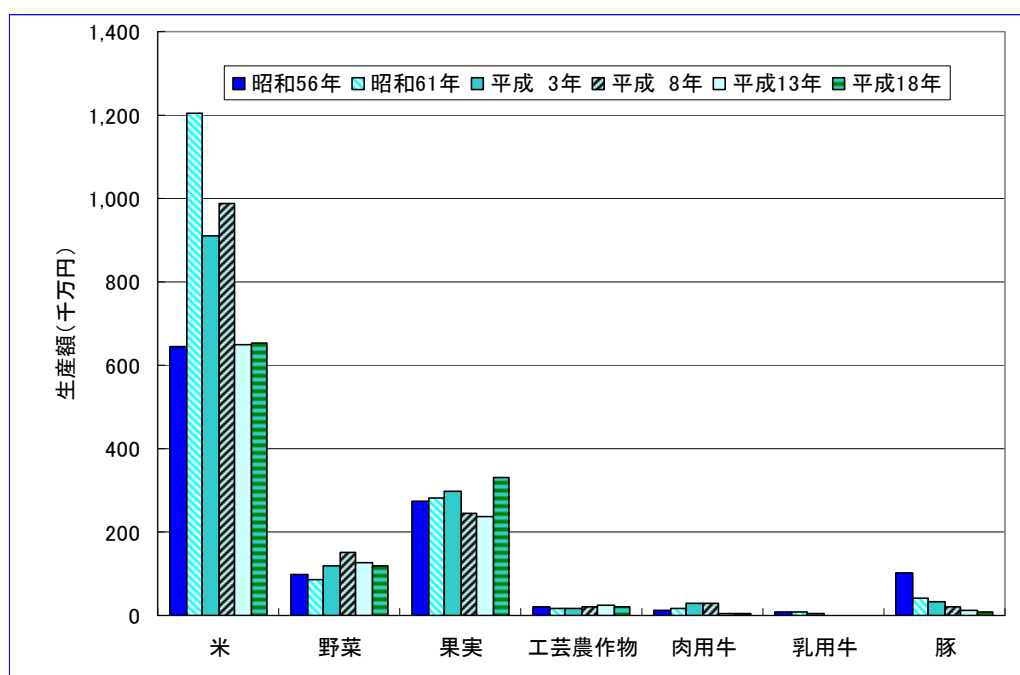
工芸農作物は、概ね約2億円前後で推移しています。

畜産の生産額は、全ての種別で減少しており、中でも乳用牛は平成18年から生産されていません。

表 1-15 農業生産額の推移(単位：千万円)

年次	農業生産額												生産 農業 所得
	合計	耕種						畜産					
		小計	米	野菜	果実	工芸 農作物	その他	小計	肉用 牛	乳用 牛	豚	その他	
昭和56年	1,164	1,041	646	96	273	19	7	123	14	7	102	0	701
昭和61年	1,658	1,593	1,203	86	280	18	6	65	18	7	39	1	770
平成 3年	1,412	1,346	909	119	296	16	6	66	28	4	32	2	786
平成 8年	1,466	1,412	988	149	243	21	11	54	30	2	21	1	822
平成13年	1,054	1,037	648	125	235	23	6	17	5	－	12	－	598
平成18年	1,142	1,127	652	120	331	19	5	15	6	0	9	0	547

※ 資料：生産農業所得統計



※ 資料：生産農業所得統計

図 1-16 農業生産額の推移

3-3. 工 業

本市の工業事業所数は、昭和60年の129事業所から増加し、平成7年には152事業所となりましたが、その後減少して平成22年には66事業所となっています。

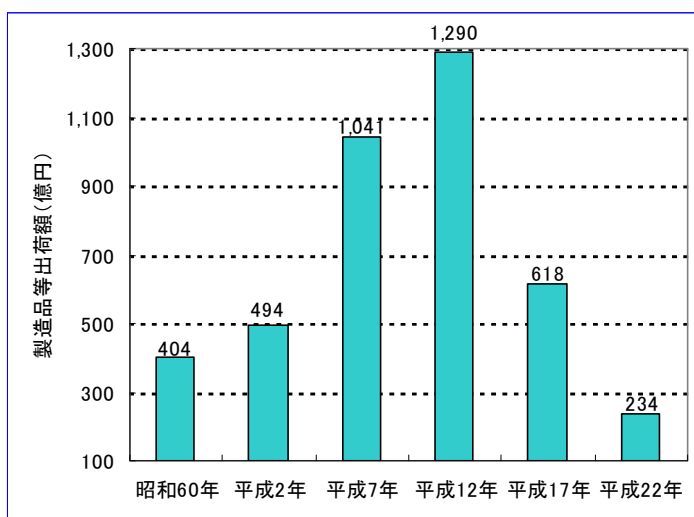
従業者数も同様の傾向を示し、昭和60年で2,607人から平成7年には3,994人となり、平成22年には1,607人となっています。

製造品出荷額は平成2年の494億円から平成7年の1,041億円と急激な伸びを示しましたが、平成12年から平成17年は急激な減少に転じ618億円となっており、平成22年では234億円となっています。

表 1-16 事業所数、従業者数、製造品出荷額等の推移

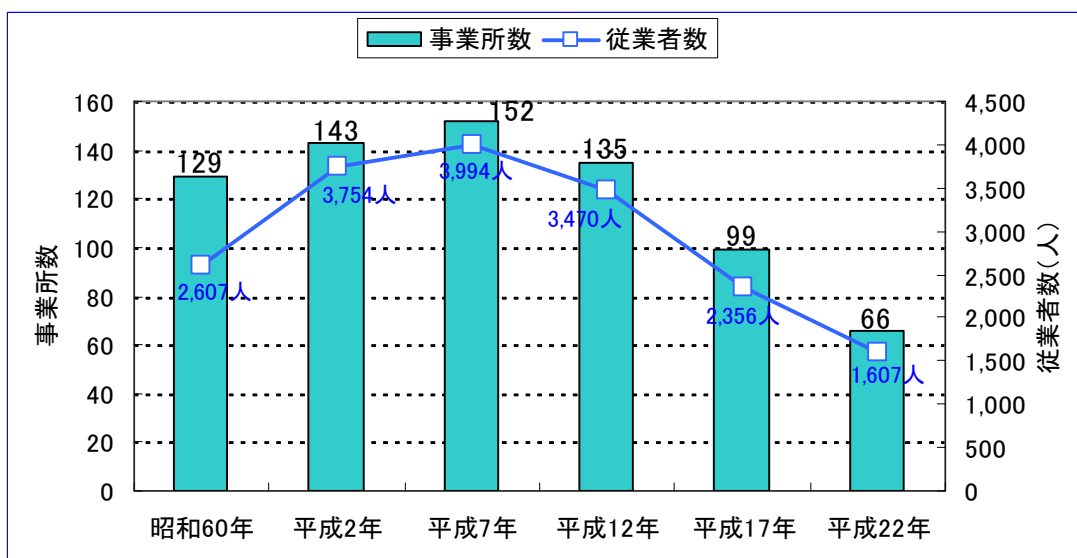
	事業所数	従業者数 (人)	製造品出荷額等 (万円)
昭和60年	129	2,607	4,035,912
平成2年	143	3,754	4,942,727
平成7年	152	3,994	10,410,084
平成12年	135	3,470	12,901,127
平成17年	99	2,356	6,177,242
平成22年	66	1,607	2,344,563

※ 資料：工業統計調査



※ 資料：工業統計調査

図 1-17 製造品出荷額等の推移



※ 資料：工業統計調査

図 1-18 事業所数、従業者数の推移

3-4. 商 業

本市の商業事業所数は、昭和63年の1,219事業所から減少し、平成19年で940事業所となっています。

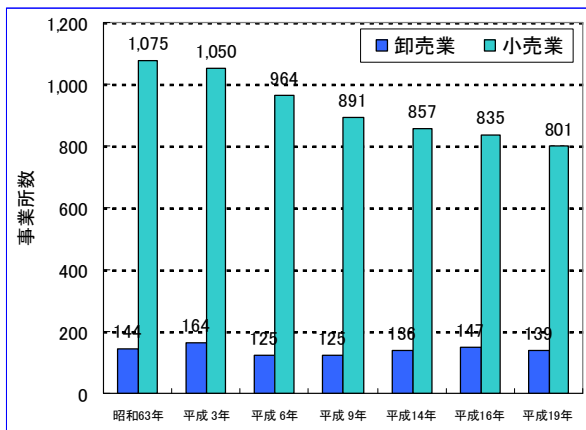
従業者数については、昭和63年から約5,300～5,900人の間で増減を繰り返し、平成9年が最も少なく5,297人で、平成19年は5,565人となっています。

年間商品販売額は昭和63年の約1,713億円から増減を繰り返しながら減少し、平成19年には約1,161億円となっています。

表 1-17 事業所数、従業者数、年間商品販売額の推移

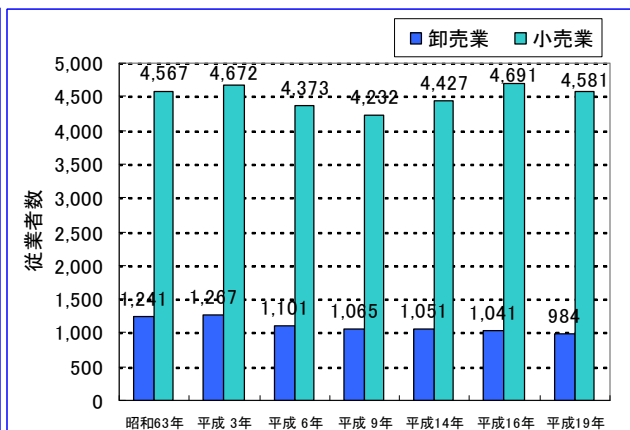
年 次	分類	事業所数	従業者数	年間商品販売額 (万円)
昭和63年	計	1,219	5,808	17,131,283
	卸売業	144	1,241	10,104,837
	小売業	1,075	4,567	7,026,446
平成 3年	計	1,214	5,939	20,108,494
	卸売業	164	1,267	12,288,757
	小売業	1,050	4,672	7,819,737
平成 6年	計	1,089	5,474	15,964,375
	卸売業	125	1,101	8,303,663
	小売業	964	4,373	7,660,712
平成 9年	計	1,016	5,297	17,397,616
	卸売業	125	1,065	10,309,081
	小売業	891	4,232	7,088,535
平成14年	計	993	5,478	11,682,076
	卸売業	136	1,051	4,545,300
	小売業	857	4,427	7,136,776
平成16年	計	982	5,732	11,076,915
	卸売業	147	1,041	4,748,976
	小売業	835	4,691	6,327,939
平成19年	計	940	5,565	11,606,111
	卸売業	139	984	4,419,011
	小売業	801	4,581	7,187,100

※ 資料：商業統計調査



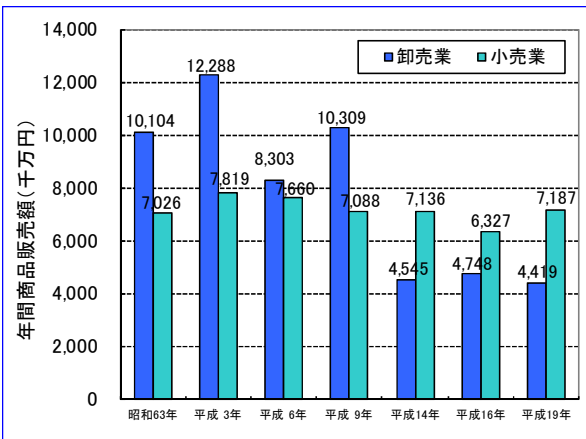
※ 資料：商業統計調査

図 1-19 事業所数の推移



※ 資料：商業統計調査

図 1-20 従業者数の推移



※ 資料：商業統計調査

図 1-21 年間商品販売額の推移

3-5. 観光・レジャー・イベント等

(1) 五所川原市内

本市の年間観光入り込み客数は、平成13年の約250万人から平成17年の約352万人に増加し、その後は概ね350万人前後で推移して平成21年には約355万人となっています。

本市を訪れる観光客の内訳は、県内客の割合が大きく、平成21年には約304万人が県内客で約85%を占めており、県外客の比率は平成13年の約10%から平成21年には約15%と増加傾向を示しています。

日帰り、宿泊別については、日帰り客の割合が大きく、平成21年には約343万人が日帰り客で約97%を占めており、宿泊客の比率は平成13年の約2%から平成21年の約3%と増加傾向を示しています。

施設、イベント等の種類別については、五所川原立佞武多が最も多く平成21年には約173万人、次いで金木桜まつりの約35万人、斜陽館の約16万人となっており、まつりへの観光が多くなっています。

表 1-18 観光入り込み客数の推移（単位：千人）

入り込み客数	平成13年	平成15年	平成17年	平成19年	平成21年
	2,498	2,871	3,519	3,469	3,553
県内客	2,249 1	2,582 1	3,222 1	2,985 1	3,036 1
県外客	249 0	289 0	297 0	484 0	517 0
日帰り	2,452 1	2,826 1	3,407 1	3,311 1	3,429 1
宿泊	46 0	45 0	112 0	158 0	124 0

※ 資料：あおもり観光統計概要

表 1-19 主要施設・イベント等の入り込み客数（単位：千人）

種 別	平成21年
主要施設	つがる克雪ドーム
	津軽金山焼
	狼野長根公園
	梵珠少年自然の家
	津軽フラワーセンター
	立佞武多の館
	斜陽館
	津軽三味線会館
	観光物産館マディニー
	奥津軽虫と火まつり
まつり	五所川原立佞武多
	五所川原産業まつり
	金木桜まつり
	川倉養の河原地蔵尊大祭
スキー場	嘉瀬スキー場

※ 資料：あおもり観光統計概要

(2) 西北地域

西北地域の著名な観光地としては、岩木山（鰯ヶ沢町）、白神山地（鰯ヶ沢町・深浦町）、十二湖（深浦町）など数多くの自然を有し、津軽三味線などの伝統芸能や歴史遺産も多く残されています。

表 1-20 西北地域の主な観光施設、まつり・イベント等の状況（単位：人）

市町村	No.	主要施設	H21入込客数	市町村	No.	まつり・イベント	H21入込客数	H21年開催月日
五所川原市	1	つがる克雪ドーム	45	五所川原市	1	奥津軽虫と火まつり	20,000	6/20
	2	津軽金山焼	76,000		2	五所川原立佞武多	1,730,000	8/3-8/8
	3	狼野長根公園	31,724		3	五所川原産業まつり	28,000	10/24-25
	4	梵珠少年自然の家	11,063		4	金木桜まつり	346,000	4/29-5/6
	5	津軽フラワーセンター	12,888		5	川倉養の河原地蔵尊大祭	50,000	8/12-14
	6	立佞武多の館	156,039		6	菊まつり	—	—
	7	斜陽館	163,281		7	青い森YOSAKOIの集い	—	—
	8	津軽三味線会館	62,730	つがる市	8	ネブタまつり	8,000	7/23-25
	9	観光物産館マディニー	62,011		9	馬市まつり	64,000	8/28-30
つがる市	10	平滝沼公園	72,985		10	チェスボールカップ水泳駅伝	8,000	8/1-2
	11	埋没林	13,442		11	花火大会	15,000	7/26
	12	ベンセ湿原	28,012	鰯ヶ沢町	12	C-POINT	25,000	7/4-5
	13	西の高野山	6,740		13	—	27,000	—
	14	道の駅もりたアーストッブ	212,763	板柳町	14	りんご灯まつり（＋花火大会）	20,000	8/8-10
	15	おらほの湯	95,499	中泊町	15	なかどまりまつり	7,000	8/11
	16	石神の湯	90,770	鶴田町	16	津軽富士見湖桜まつり	20,000	5/3-5
	17	森のレストランライアン	33,401		17	つるたままつり	86,000	8/14-16
	18	つがる地球村	55,464					
	19	稲垣温泉	10,335					
	20	車力温泉	107,963					
鰯ヶ沢町	21	むらおこし拠点館フラット	105,296					
	22	海の駅わんど	213,581					
	23	くろくまの滝	52,662					
	24	ミニ白神	19,517					
	25	やかたの売店	7,847					
	26	光信公の館	3,682					
深浦町	27	十二湖公園	395,780					
	28	森の物産館キョロロ	122,960					
	29	アオーネ白神十二湖	116,130					
	30	十二湖リフレッシュ村	15,110					
	31	十二湖ビジターセンター	35,190					
	32	十二湖エコ・ミュージアムセンター「故郷館」	12,410					
板柳町	33	板柳町ふるさとセンター	138,416					
中泊町	34	十三湖岸公園	35,225					
	35	中泊町特産物直売所「ビュア」	93,892					
	36	七平展望所	18,280					
	37	中泊町運動公園	23,641					
	38	竜泊ライン	178,620					
	39	権現崎	11,880					
	40	交流施設「ポイントマリ」	17,341					
	41	鶴の里あるじゃ	394,892					
鶴田町	42	富士見湖パーク	102,035					
	43	山田温泉	41,441					
	44	鶴寿温泉	19,702					
	45	丹頂鶴自然公園	7,866					

※ 資料：あおもり観光統計概要

		自然公園	H21入込客数
国定公園	1	津軽	2,830,000
県立自然公園	2	芦野池沼群	1,097,000

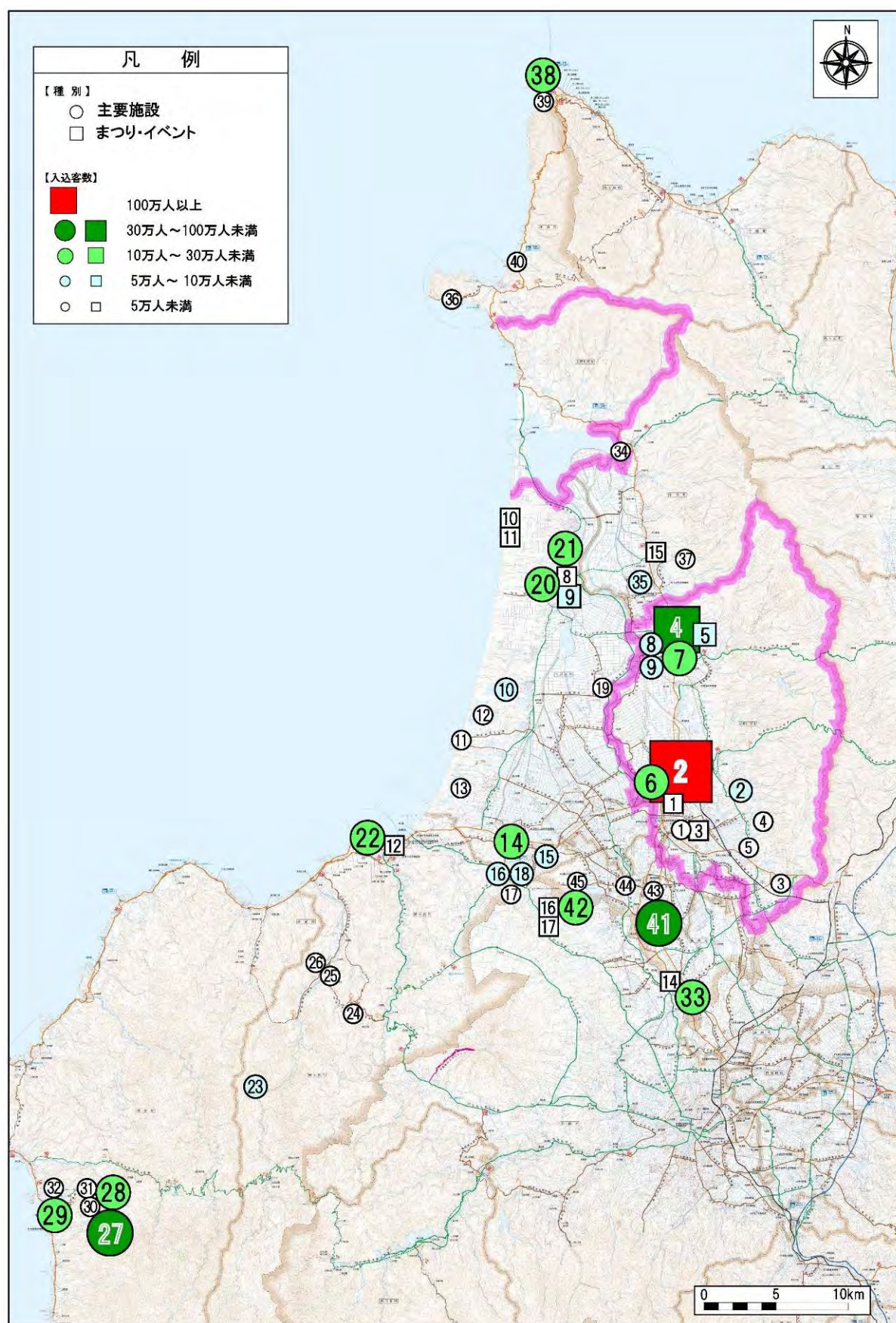


図 1-22 観光施設等位置図

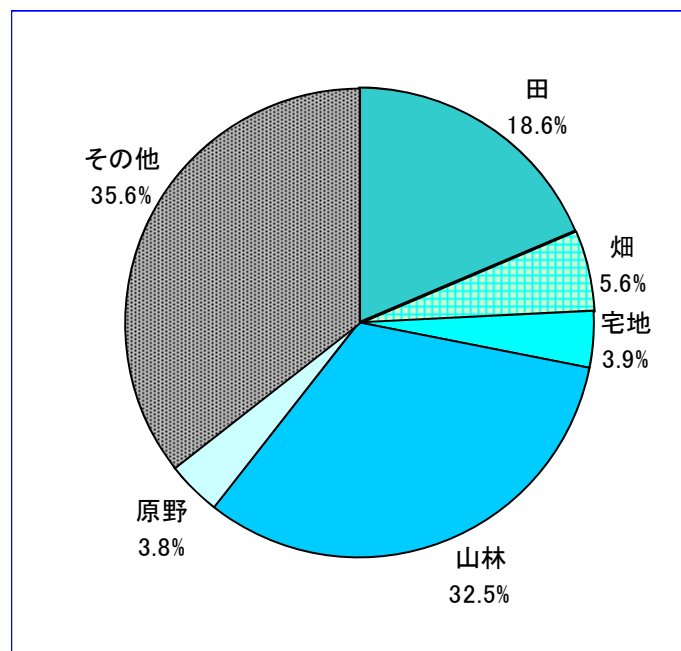
4. 土地利用

4-1. 土地利用の状況

本市の土地利用は、総面積 404.56 km²の 32.5%が山林 131.49km²で最も多くを占めており、次いで田が 18.6%で 75.28km²、畑が 5.6%で 22.64 km²、宅地が 3.9%で 15.73 km²、原野が 3.8%で 15.51 km²となっており、緑豊かな都市が形成されています。

表 1-21 土地利用状況

	田	畑	宅地	山林	原野	その他	計
面積(km ²)	75.28	22.64	15.73	131.49	15.51	143.91	404.56
構成比	18.6%	5.6%	3.9%	32.5%	3.8%	35.6%	100.0%



※ 資料：平成 24 年 3 月刊 五所川原市統計書
(平成 23 年 1 月 1 日現在)

図 1-23 土地利用状況

4-2. 市街化の動向

(1) 都市計画区域、用途地域^{*}の指定状況

本市は旧五所川原市に都市計画区域が指定されており、面積は 12,336ha で、そのなかに人口の約 79%に相当する 46,164 人が居住しています。

用途地域面積は 735ha で、その中に人口の約 39%の 23,014 人が居住しています。

表 1-22 都市計画区域指定状況

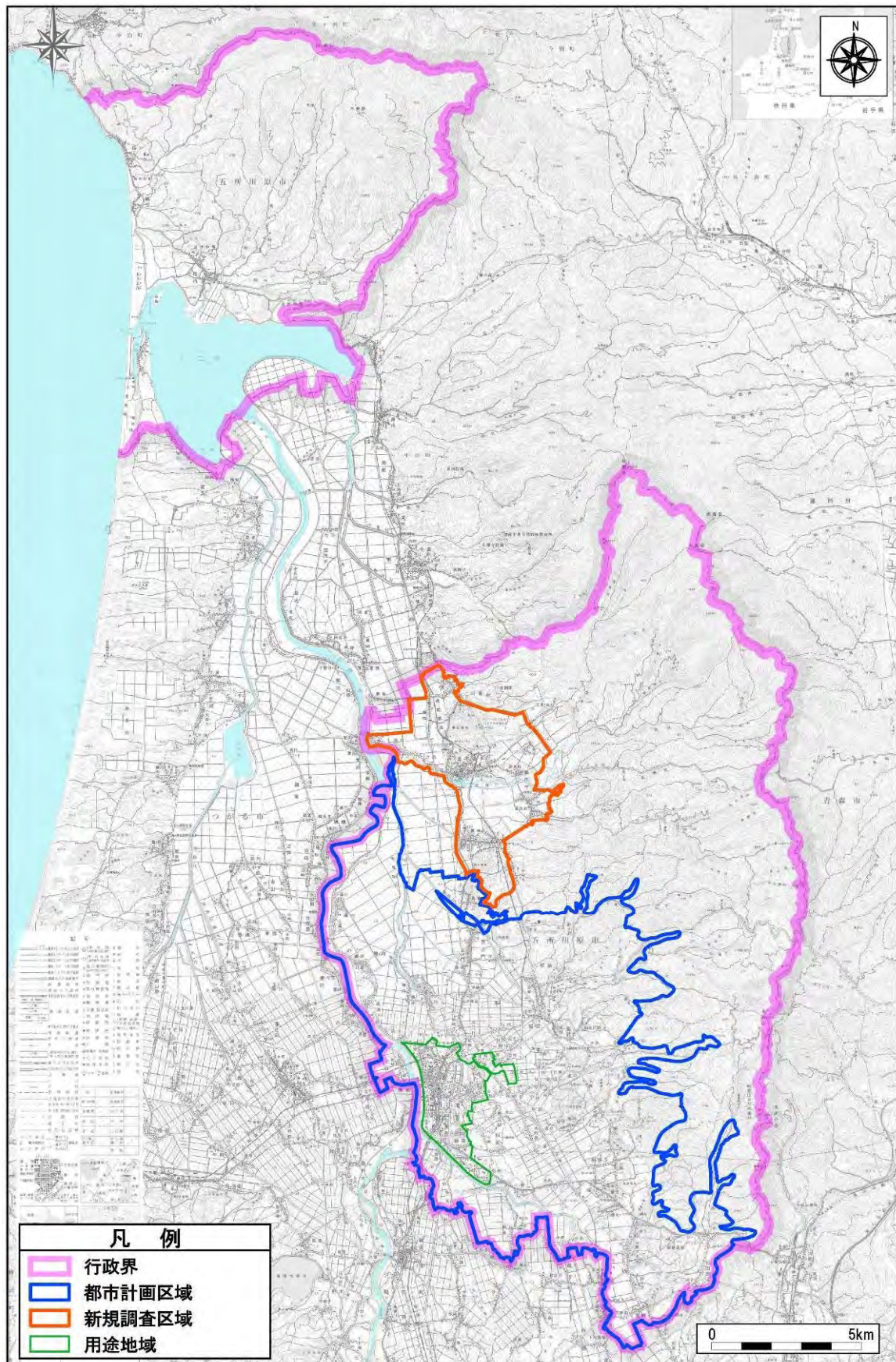
都市計画区域名	五所川原
法適用年月日	昭和10年6月22日
最終区域指定年月日	昭和50年3月27日
面積(ha)	12,336
区域	五所川原市の一部
都市計画区域人口(人)	46,164
用途地域内人口(人)	23,014

※ 資料：青森県の都市計画（平成 24 年 3 月 31 日現在）

表 1-23 用途地域指定状況

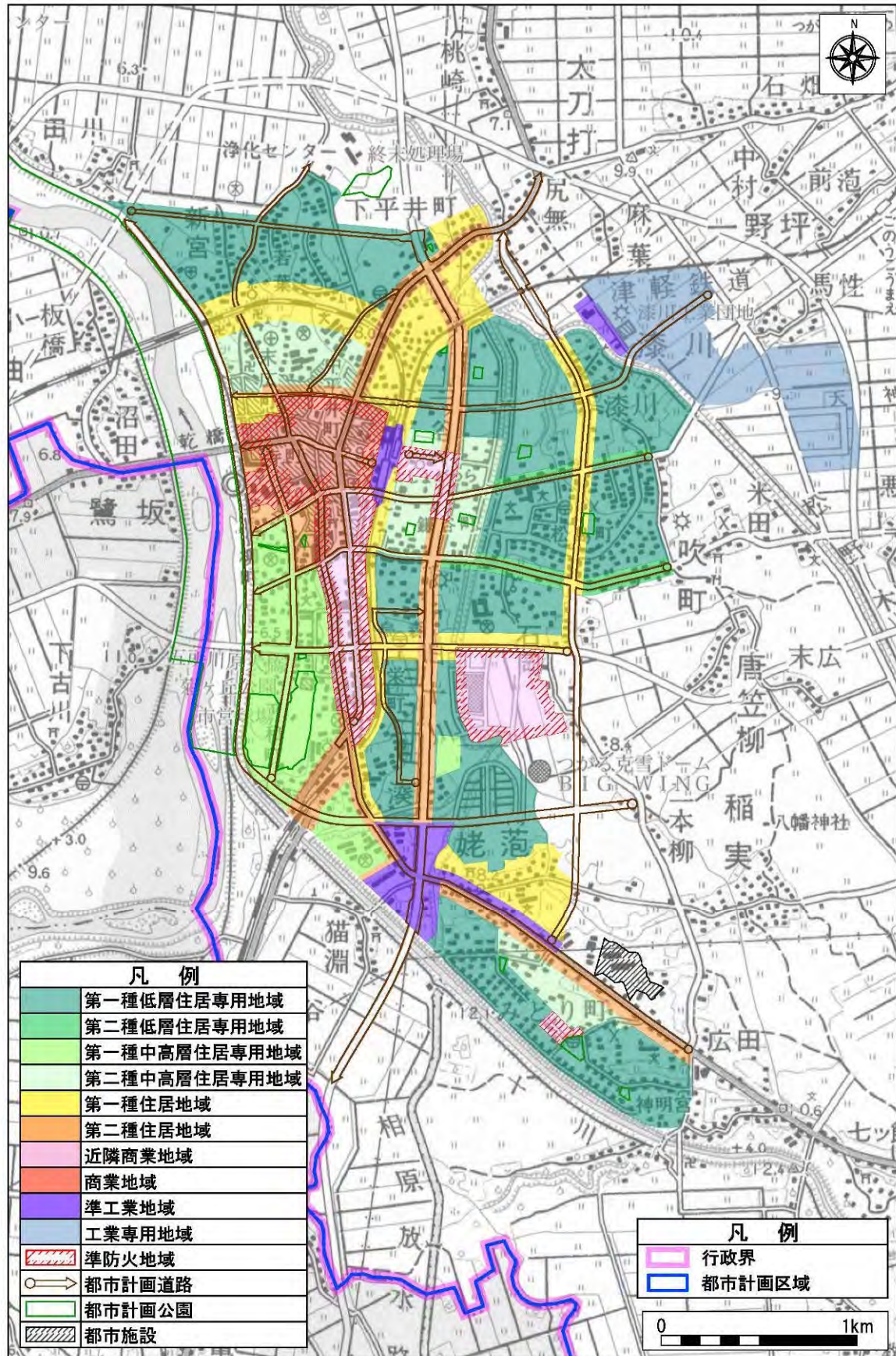
用途地域	面積(ha)
第一種低層住居専用地域	308.0
第二種低層住居専用地域	10.0
第一種中高層住居専用地域	63.0
第二種中高層住居専用地域	67.0
第一種住居地域	73.0
第二種住居地域	46.0
準住居地域	—
近隣商業地域	50.0
商業地域	38.0
準工業地域	19.0
工業地域	—
工業専用地域	61.0
計	735.0

※ 資料：青森県の都市計画（平成 24 年 3 月 31 日現在）



※ 資料：平成 20 年度 都市計画基礎調査

図 1-24 都市計画区域

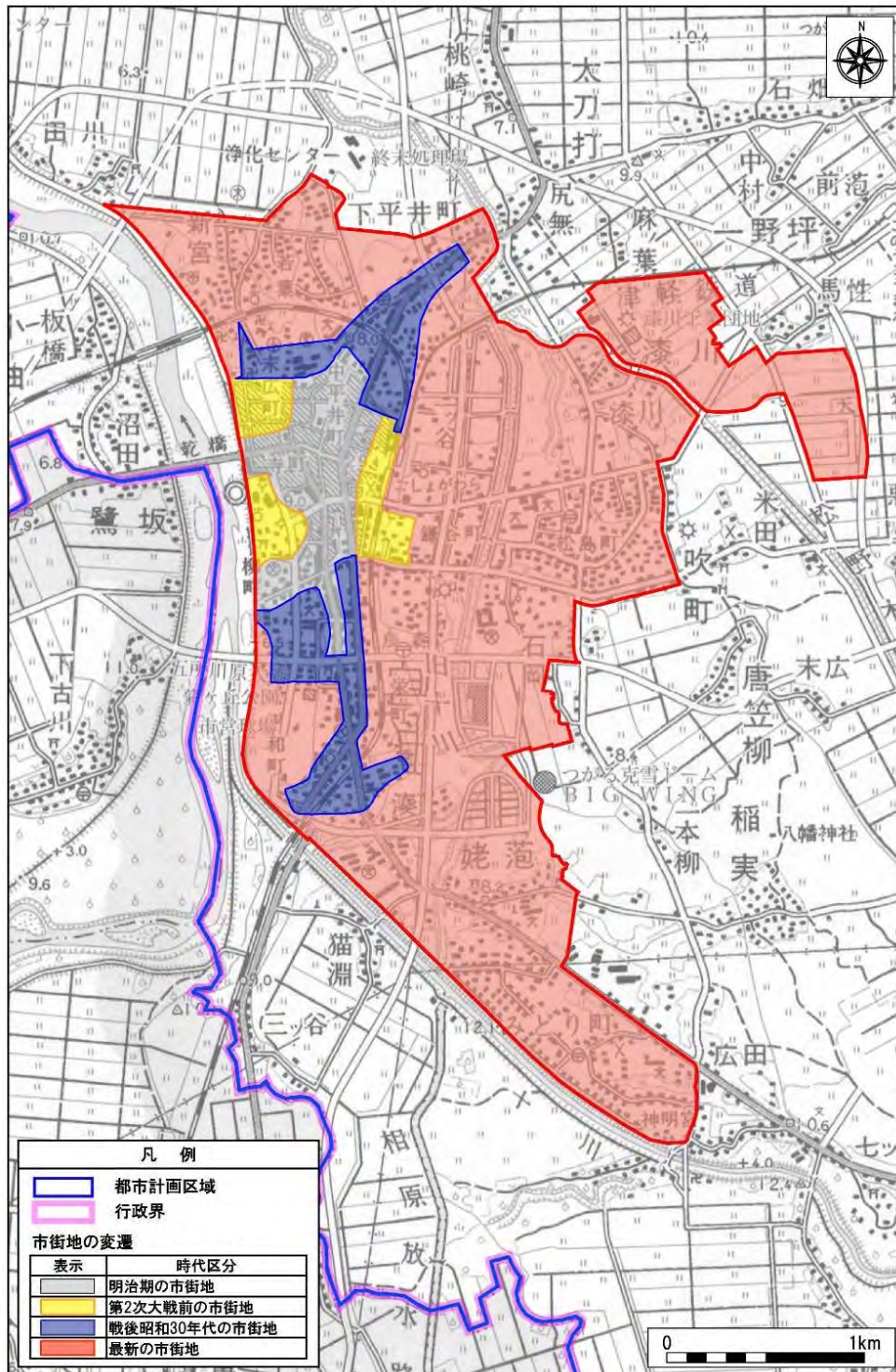


※ 資料：五所川原市都市計画図(平成 23 年 10 月)

図 1-25 用途地域の指定状況

(2) 市街地の変遷

本市は、津軽平野の新田開拓から農業生産の中心地として栄え、明治以降は交通基盤整備の充実により、農海産物等を中心とした流通拠点として発展し、「商都五所川原」が形成されました。その後、新市街地の形成や工業団地の整備など随時市街地が拡大し、商業・流通の拠点及び内陸型工業都市として発展してきましたが、現在、中心市街地の空洞化が顕在化しています。



※ 資料：平成 20 年度 都市計画基礎調査

図 1-26 市街地の変遷

(3) 都市開発の状況

① 土地区画整理事業等

本市の土地区画整理事業は、昭和40年半ばから4地区施行されており、その面積の総数は、約130haとなっています。なお、中心市街地の活性化を目的とした大町二丁目地区4.4haは、平成24年5月22日に事業計画を変更し、平成32年度の事業完了（清算金分割徴収期間の5箇年を含む）を目指しております。

また、地区計画は、はるにれ団地地区の14.5haについて決定されており、地区の特性に応じた良好な住環境の維持が図られています。

表 1-24 土地区画整理事業

地区名	施行者	面積(ha)	事業認可	施行年度
駅東部	市	39.9	昭和45年3月24日	S44～H21
駅東部第二	市	24.9	昭和52年2月15日	S51～H21
南部	市	60.5	昭和58年12月15日	S58～H28
大町二丁目	市	4.4	平成17年9月30日	H17～H25

※ 資料：青森県の都市計画（平成24年3月31日現在）

表 1-25 地区計画

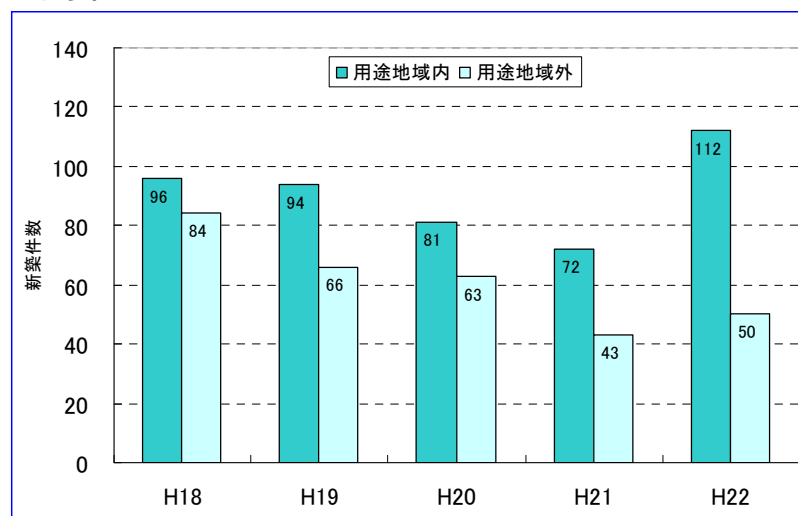
地区名	最終決定年月日 (当初決定年月日)	面積(ha)
はるにれ団地地区	平成19年7月11日 (平成10年12月1日)	14.5

※ 資料：青森県の都市計画（平成24年3月31日現在）

② 新築件数

本市の都市計画区域内における平成18年から平成22年の5年間の新築件数は、平成18年から平成21年までは全体的に減少傾向にあり、180件から115件に減少しましたが、平成22年に162件と増加しています。

用途地域と用途地域外では、用途地域内の新築件数が多く、平成22年には2倍以上となっています。



※ 資料：建築住宅課より

図 1-27 新築件数状況

(4) 地価動向

本市の地価動向は、平成 17 年から平成 22 年まで全地点で下落しており、平成 21 年から平成 22 年の下落率は平均で約－6%となっています。

表 1-26 地価動向 (単位：円/㎡)

番号	地点	用途	17年価格	18年価格	19年価格	20年価格	21年価格	22年価格	備考
1	松島町2丁目45番	住宅	32,100	30,800	29,200	27,600	26,000	24,400	五所川原-1
2	字末広町9番15	住宅	28,900	27,800	26,700	25,500	24,300	22,800	五所川原-2
3	字烏森22番12	住宅	28,800	27,600	—	—	—	—	五所川原-3
4	字一ツ谷538番5	住宅	29,200	28,100	27,000	25,900	24,700	23,200	五所川原-4
5	字大町15番3外	店舗	90,000	81,500	74,000	70,200	66,600	63,000	五所川原-5-1
6	字布屋町9番6外	店舗兼住宅	61,100	56,400	52,200	49,800	47,300	44,500	五所川原-5-2
7	字岩木町1番8	住宅	40,100	38,000	36,000	34,000	31,900	29,800	県-1
8	みどり町三丁目40番	住宅	25,200	24,200	23,400	22,800	22,000	21,200	県-2
9	大字小曲字沼田22番7外	住宅	21,000	19,900	18,800	17,700	16,600	15,400	県-3
10	大字漆川字袖掛114番	田	8,400	8,000	7,800	7,500	7,100	6,700	県-3-1
11	大字広田字榊森51番24	住宅	19,700	19,100	18,600	18,200	17,600	16,900	県-4
12	若葉二丁目1番51	住宅	27,700	26,600	25,500	24,100	22,700	21,200	県-5
13	字田町71番外	店舗兼住宅	46,100	40,800	—	—	—	—	県-5-1
	大字唐笠柳字藤巻509番16	店舗	—	—	43,200	41,800	40,000	38,100	
14	字本町44番2 (大町二丁目地区土地区画整理事業509街区4号)	店舗	72,300	66,500	62,500	60,300	—	—	県-5-2
	字本町50番8外	店舗	—	—	—	—	58,000	53,800	
15	金木町朝日山317番6外	店舗兼住宅	34,200	30,800	27,700	25,700	23,700	21,700	県-5-3
16	金木町朝日山217番	住宅	12,600	12,000	11,400	10,900	10,400	9,800	県-6
17	金木町芦野84番1123	住宅	11,100	10,600	10,100	9,700	9,300	8,800	県-7
18	大字姥范字船橋240番2	事務所兼工場	44,600	41,900	39,400	37,000	34,000	30,700	県-7-1
19	金木町嘉瀬雲雀野40番3	住宅	8,200	7,800	7,400	7,100	6,800	6,400	県-8
20	金木町喜良市弓矢形23番9	住宅	8,400	8,000	7,600	7,300	7,000	6,600	県-9
21	大字漆川字鍋懸151番1	工場	7,600	7,300	7,100	6,900	6,700	6,500	県-9-1
22	相内181番1	住宅	8,500	8,000	7,600	7,200	6,800	6,400	県-10
23	相内岩井81番376	住宅	4,900	4,700	—	—	—	—	県-11
	十三深津79番	住宅	9,600	9,100	8,600	8,100	7,600	7,100	

※ 資料：地価公示、青森県地価調査

表 1-27 地価変動率 (単位：%)

番号	地点	用途	18/17	19/18	20/19	21/20	22/21	備考
1	松島町2丁目45番	住宅	△ 4.05	△ 5.19	△ 5.48	△ 5.80	△ 6.15	五所川原-1
2	字末広町9番15	住宅	△ 3.81	△ 3.96	△ 4.49	△ 4.71	△ 6.17	五所川原-2
3	字烏森22番12	住宅	△ 4.17	—	—	—	—	五所川原-3
4	字一ツ谷538番5	住宅	△ 3.77	△ 3.91	△ 4.07	△ 4.63	△ 6.07	五所川原-4
5	字大町15番3外	店舗	△ 9.44	△ 9.20	△ 5.14	△ 5.13	△ 5.41	五所川原-5-1
6	字布屋町9番6外	店舗兼住宅	△ 7.69	△ 7.45	△ 4.60	△ 5.02	△ 5.92	五所川原-5-2
7	字岩木町1番8	住宅	△ 5.24	△ 5.26	△ 5.56	△ 6.18	△ 6.58	県-1
8	みどり町三丁目40番	住宅	△ 3.97	△ 3.31	△ 2.56	△ 3.51	△ 3.64	県-2
9	大字小曲字沼田22番7外	住宅	△ 5.24	△ 5.53	△ 5.85	△ 6.21	△ 7.23	県-3
10	大字漆川字袖掛114番	田	△ 4.76	△ 2.50	△ 3.85	△ 5.33	△ 5.63	県-3-1
11	大字広田字榊森51番24	住宅	△ 3.05	△ 2.62	△ 2.15	△ 3.30	△ 3.98	県-4
12	若葉二丁目1番51	住宅	△ 3.97	△ 4.14	△ 5.49	△ 5.81	△ 6.61	県-5
13	字田町71番外	店舗兼住宅	△ 11.50	—	—	—	—	県-5-1
	大字唐笠柳字藤巻509番16	店舗	—	5.88	△ 3.24	△ 4.31	△ 4.75	
14	字本町44番2 (大町二丁目地区土地区画整理事業509街区4号)	店舗	△ 8.02	△ 6.02	△ 3.52	—	—	県-5-2
	字本町50番8外	店舗	—	—	—	△ 3.81	△ 7.24	
15	金木町朝日山317番6外	店舗兼住宅	△ 9.94	△ 10.06	△ 7.22	△ 7.78	△ 8.44	県-5-3
16	金木町朝日山217番	住宅	△ 4.76	△ 5.00	△ 4.39	△ 4.59	△ 5.77	県-6
17	金木町芦野84番1123	住宅	△ 4.50	△ 4.72	△ 3.96	△ 4.12	△ 5.38	県-7
18	大字姥范字船橋240番2	事務所兼工場	△ 6.05	△ 5.97	△ 6.09	△ 8.11	△ 9.71	県-7-1
19	金木町嘉瀬雲雀野40番3	住宅	△ 4.88	△ 5.13	△ 4.05	△ 4.23	△ 5.88	県-8
20	金木町喜良市弓矢形23番9	住宅	△ 4.76	△ 5.00	△ 3.95	△ 4.11	△ 5.71	県-9
21	大字漆川字鍋懸151番1	工場	△ 3.95	△ 2.74	△ 2.82	△ 2.90	△ 2.99	県-9-1
22	相内181番1	住宅	△ 5.88	△ 5.00	△ 5.26	△ 5.56	△ 5.88	県-10
23	相内岩井81番376	住宅	△ 4.08	—	—	—	—	県-11
	十三深津79番	住宅	△ 5.21	△ 5.49	△ 5.81	△ 6.17	△ 6.58	

※ 資料：地価公示、青森県地価調査

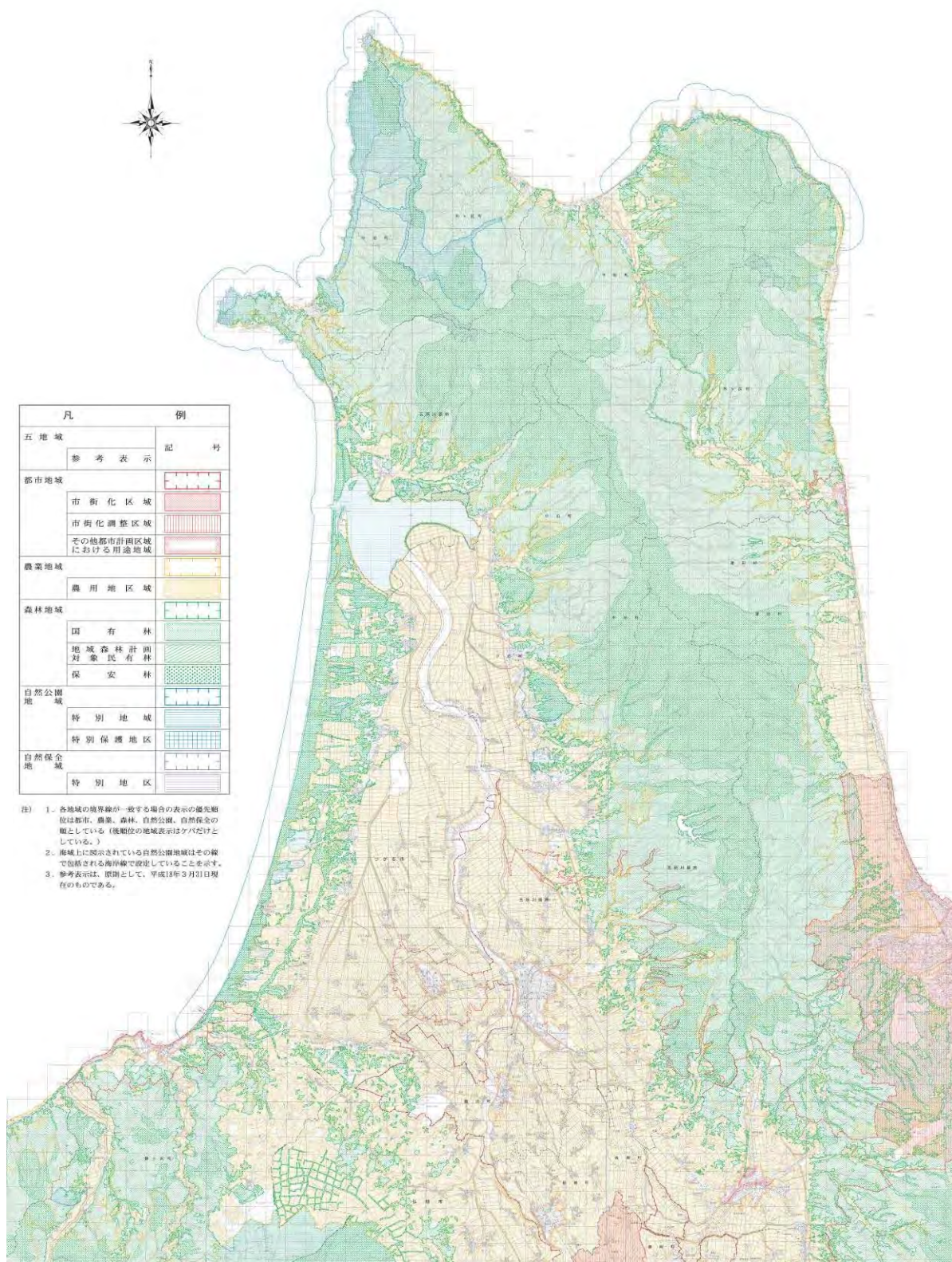
4-3. 土地利用規制の状況

本市の土地利用に係わる法的規制は、農業振興地域が五所川原地域の用途地域周辺、金木地域と市浦地域の市街地周辺に指定され、その面積は約 22,516ha となっています。

表 1-28 土地利用規制状況

地域・地区	名称	指定年月日	面積(ha)	備考
県立自然公園地域	芦野池沼群県立自然公園	S33.10.14	125	—
鳥獣保護区	飯詰	H3.10.31	1,197	—
	梵珠	S61.10.31	244	
	七和	S63.10.31	195	
	津軽フラワーセンター	H3.10.31	215	
	芦野	S52.11.1	152	
名勝、天然記念物等の存在地点又は存在地区	旧平山家住宅主屋及び表門	S53.1.21	365.07㎡・6.94㎡	国重要文化財
	旧津島家住宅主屋、文庫蔵、中の蔵、米蔵、煉瓦塀	H16.12.10	(2,255.55㎡)	
	岩木山の登拝行事	S59.1.21		国重要無形民俗文化財
	五所川原須恵器窯跡	H16.9.30		国史跡
	飯詰八幡宮本殿	H6.1.21		県重宝
	梵鐘	S37.11.16		県重宝
	旧西沢家住宅主屋	H20.3.19		登録有形文化財
	金木町玉鹿石	S55.1.24		県天然記念物
	浅井獅子(鹿)踊り	S37.1.12		県無形民俗文化財
	金木さなぶり荒馬踊	S56.9.26		県無形民俗文化財
	嘉瀬奴踊	S44.12.15		県無形民俗文化財
	楠美家住宅	H12.11.2		市有形文化財
	須恵器の登りがま	S44.9.5	1㎡・5㎡・10㎡	—
	ニホンカモシカ	S48.2.15	中山山脈一帯	—
	ホロムイイチゴ	S50.8.27	50㎡	—
	虫おくり	H4.6.8		—
農業振興地域	五所川原	S45.3.31	11,901.6	—
	金木	S46.12.25	5,596.5	—
	市浦	S47.12.28	5,018.1	—
悪臭防止法	五所川原	S48.3.1	9,316.7	—
	金木	S59.3.3	4,108	—

※ 資料：平成 20 年度 都市計画基礎調査



※ 資料：青森県土地利用基本計画図

図 1-28 土地利用規制状況

5. 都市施設等

5-1. 交通施設

(1) 公共交通網

本市には、JR 東日本の五能線と津軽鉄道の2路線の鉄道があり、五能線は奥羽本線の川部駅から本市の五所川原駅を通り、日本海沿岸を南下して秋田県の東能代駅と結ばれており、津軽鉄道は津軽五所川原駅から本市内を北上して中泊町の津軽中里駅と結ばれています。

五能線の駅は市内に五所川原駅の1駅しかありませんが、津軽鉄道の駅は12駅あるうち9駅が本市にあります。

バス路線は、青森市や弘前市など近隣市町を結ぶ路線や、市内を循環する路線などの路線バスが合わせて19路線と、住宅地とエルムの街を循環する120円バスが3路線あります。

また、この他に市民の行政利便の向上と交流機会の拡大に努めるとともに、新市一体化の促進を目的として行政連絡バスを運行しています。

表 1-29 鉄道、バス路線運行状況

JR五能線		
No.	路線名	運行回数 (往復)
1	川部～東能代	13
※資料：平成24年11月末JR東日本時刻表		
津軽鉄道		
No.	路線名	運行回数 (往復)
1	津軽五所川原～津軽中里	15
※資料：平成24年11月末津軽鉄道時刻表		
弘南バス		
No.	路線名	運行回数 (往復)
1	弘前～五所川原線	6
2	五所川原～青森線	22
3	五所川原～板柳線(柏木経由)	5
4	金木線	3
5	五所川原～小泊線(金木・中里経由)	6
6	五所川原～小泊線(十三経由)	10
7	五所川原～稲垣線(再賀経由)	3
8	小泊～下前線	9
9	五所川原～出来島線	5
10	五所川原～豊川線	8
11	広田団地線	片道
12	五所川原～南広森線(越水経由)	4
13	高野東高校環状線(北廻り線)	4
14	高野東高校環状線(南廻り線)	4
15	飯詰能開短大環状線(北廻り線)	3
16	飯詰能開短大環状線(南廻り線)	3
17	五所川原～鶴田線(廻堰経由)	5
18	藻川線(種井経由)	3
19	藻川線(高瀬経由)	3
※資料：平成24年11月末弘南バス時刻表		
120円バス		
No.	路線名	循環回数
1	エルムの街直行バス(立佞武多号)	25
2	若葉・松島町コース(虫おくり号)	9
3	広田・みどり町コース(ゴニンカン号)	10
※資料：平成24年11月末弘南バス時刻表		
行政連絡バス		
No.	路線名	運行日
	(夏季運行ダイヤ3月16日～11月30日)	
	市浦総合支所・金木総合支所・五所川原市役所・・・午前午後各1便のみ	月・水・木・金
	市浦総合支所・金木総合支所・五所川原市役所	火
	(冬季運行ダイヤ12月1日～3月15日)	
	市浦総合支所・金木総合支所・五所川原市役所・・・1便のみ	月～金
※資料：平成24年11月末行政連絡バス運行ダイヤ		

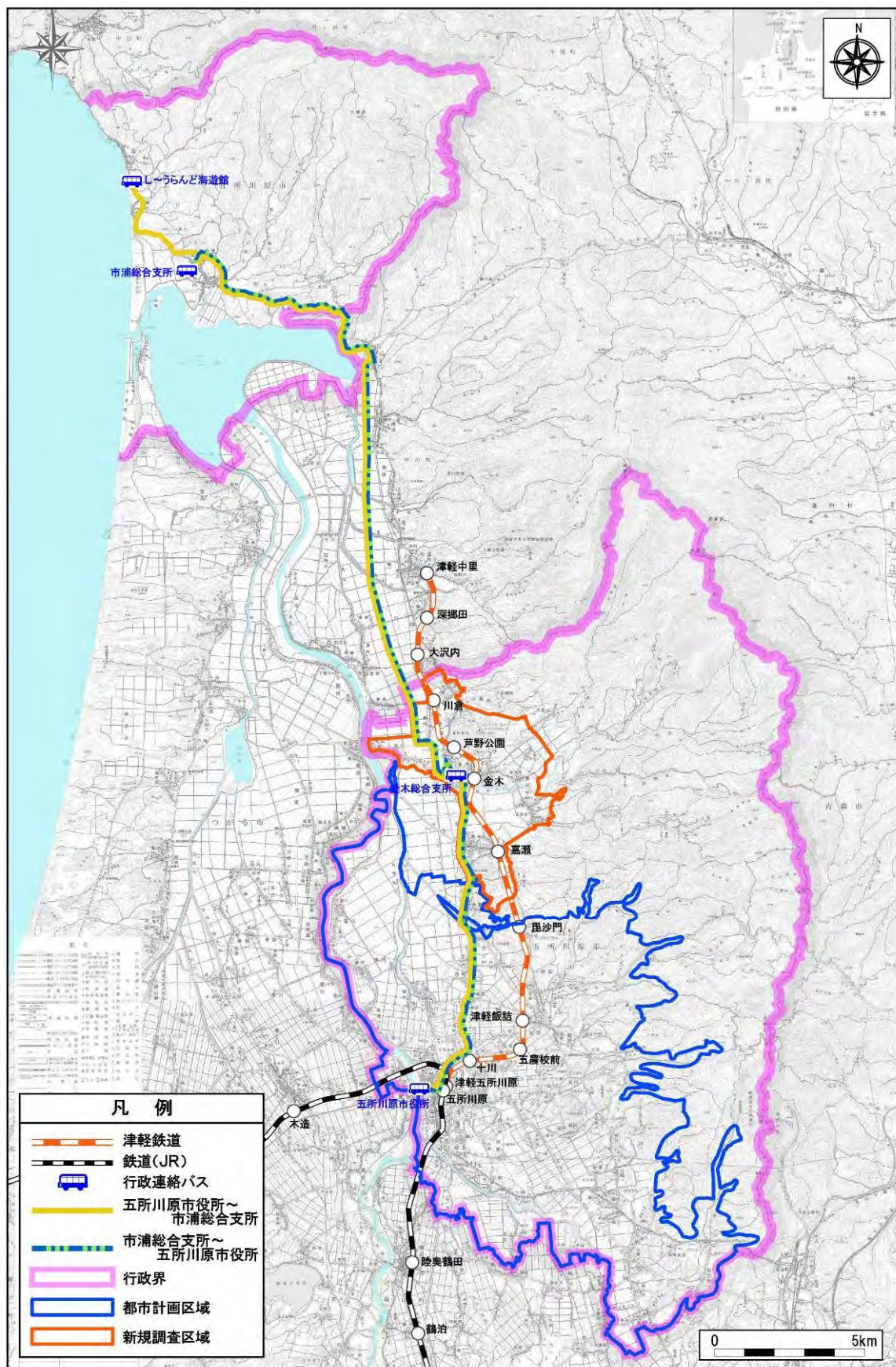


図 1-29 鉄道、バス路線図

(2) 道路網

本市の道路網は、青森市の国道7号から分岐し本市の中心市街地を通過して秋田県へと延びる国道101号が東西に横断しており、藤崎町の国道7号から分岐し中心市街地で国道101号と交差して金木地域、市浦地域を通り外ヶ浜町へ延びる国道339号が南北に縦断しています。また、本市と東北自動車道の浪岡インターチェンジを結ぶ高規格道路津軽自動車道の浪岡五所川原道路が平成19年12月に供用開始され、2つの国道と併せて広域的な役割を担っています。

広域的役割を果たす国道、高規格道路と、本市の市街地や近隣市町の市街地を結ぶ主要地方道、一般県道及び広域農道で道路網の骨格を成しており、その中に生活道路が張り巡らされています。

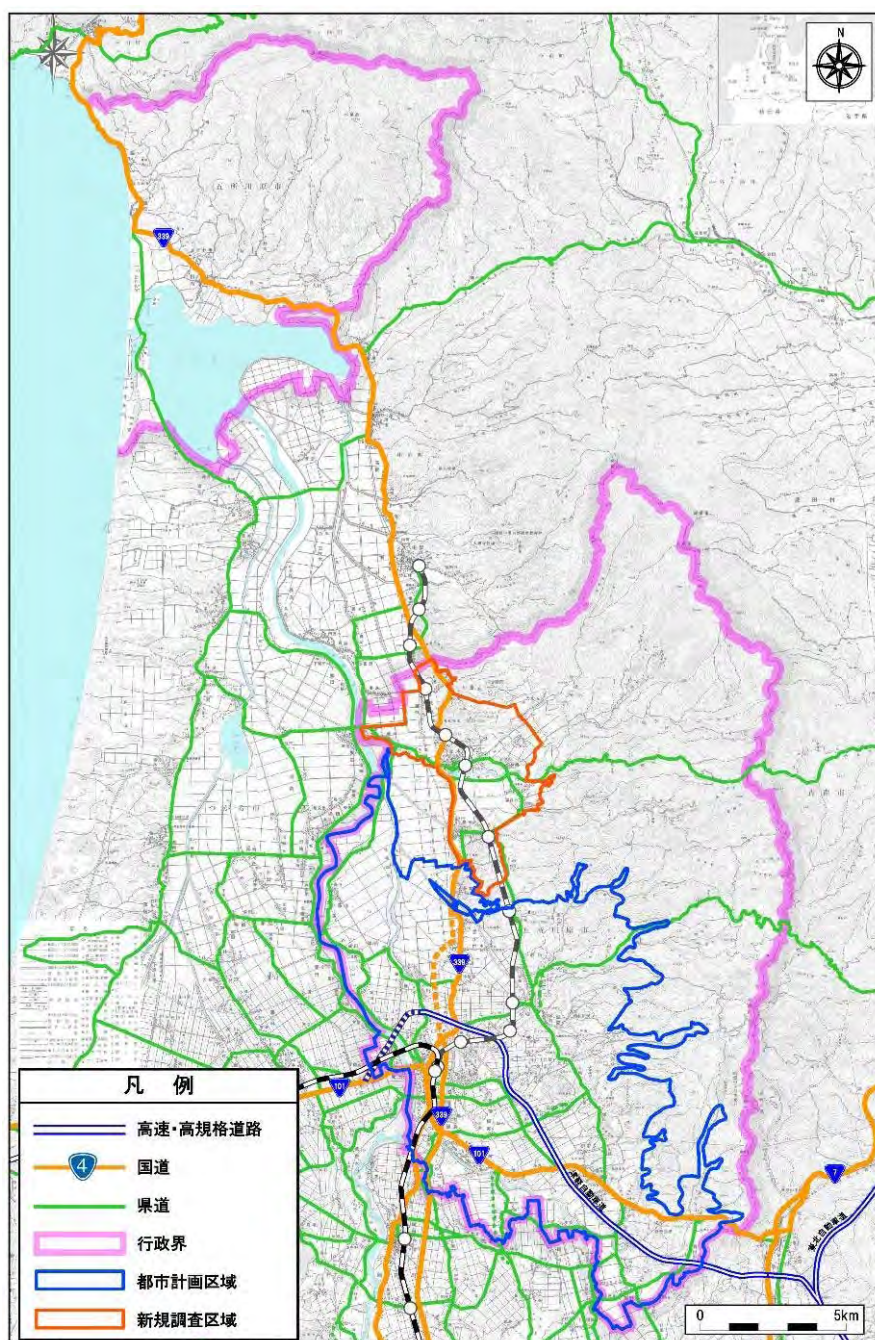


図 1-30 道路網

(3) 道路の交通状況

本市では29地点で交通量調査が実施されており、平成22年の交通量は国道101号と県道福山五所川原線の五所川原地域市街地中心部付近で1万台を越えています。

また、県道福山五所川原線の市街地中心部付近の観測地点では、平成11年から平成17年にかけて交通量が2倍以上に増加し、平成22年においてもその台数を維持しています。

表 1-30 自動車交通量

No.	路線名	観測地点名	平成17年 交通センサス 調査地点番号	平日12時間交通量				
				平成6年	平成9年	平成11年	平成17年	平成22年
1	一般国道101号	大字前田野目字砂田21-1	(1064)	15,125	11,844	12,795	7,435	5,438
2	〃	大字福山字実吉73-6	(1065)	8,605	8,787	8,694	7,872	—
3	〃	大字姥范字船橋240-7	(1066)	13,872	16,138	14,640	13,320	13,934
4	〃	大字小曲字沼田	(1067)	10,722	11,940	9,818	11,335	11,034
5	一般国道339号	字下平井町134-1	(1150)	9,344	9,015	9,658	10,008	6,860
6	〃	金木町嘉瀬雲雀野284-4	(1151)	5,032	5,424	5,646	5,769	5,689
7	〃	相内岩井81-384	(1156)	2,049	2,215	2,845	2,029	1,270
8	〃	磯松赤川3-85	(1157)	2,763	2,698	3,495	2,484	2,216
9	〃	(金木町芦野216-3)	(71152)	4,652	4,899	5,646	5,769	—
10	主要地方道屏風山内真部線	(金木町喜良市相野山37-1)	(64008)	249	748	940	943	980
11	主要地方道青森五所川原線	大字飯詰字影日沢842-2	(4072)	471	559	575	234	85
12	〃	(一野坪字草蕨2-2)	(64073)	1,860	1,878	1,666	1,688	1,644
13	主要地方道五所川原浪岡線	大字原子字山元44-1	(4093)	1,336	1,496	1,541	1,370	1,133
14	主要地方道五所川原岩木線	大字高野字柳田330-3	(4095)	2,789	2,749	2,831	2,062	2,095
15	主要地方道五所川原金木線	(大字松野木字花笠19-3)	(64098)	1,845	2,059	2,404	2,429	2,366
16	主要地方道五所川原黒石線	(大字梅田字燕口112)	(64101)	1,849	1,998	1,549	1,567	1,418
17	主要地方道五所川原力線	(大字小曲字豊里46-6)	(64120)	1,875	3,152	3,143	3,174	2,963
18	一般県道金木停車場線	金木町朝日山	(46001)	—	—	1,549	1,370	1,334
19	一般県道嘉瀬停車場線	金木町嘉瀬端山崎	(46007)	—	—	2,404	2,223	2,165
20	一般県道蒔田五所川原線	(大字高瀬字鷹ノ爪370-3)	(66072)	2,177	2,747	2,686	2,286	2,134
21	一般県道福山五所川原線	大字水野尾字懸樋56	(6077)	7,637	8,491	8,923	10,781	5,456
22	〃	字下り枝27	(6078)	6,425	5,556	5,319	12,637	12,805
23	一般県道松野木姥范線	(大字姥范字船橋25)	(66079)	2,803	3,750	2,738	2,330	2,175
24	一般県道大泉姥范線	大字姥范字菖蒲	(46081)	—	—	423	351	328
25	一般県道羽野木沢梅田線	(大字梅田字平野2)	(66082)	829	1,084	968	822	767
26	一般県道沖飯詰五所川原線	(大字川山字森内374-2)	(66085)	3,329	3,569	3,898	3,313	3,227
27	一般県道喜良市嘉瀬停車場線	(金木町喜良市弓矢形26-1)	(66124)	1660	1,329	1,408	1,199	1,119
28	一般県道五所川原停車場線	字大町	(46189)	—	—	5,319	4,644	4,596
29	一般県道津軽飯詰停車場線	大字飯詰字清野	(46220)	—	—	423	351	342

※ 資料：道路交通センサス

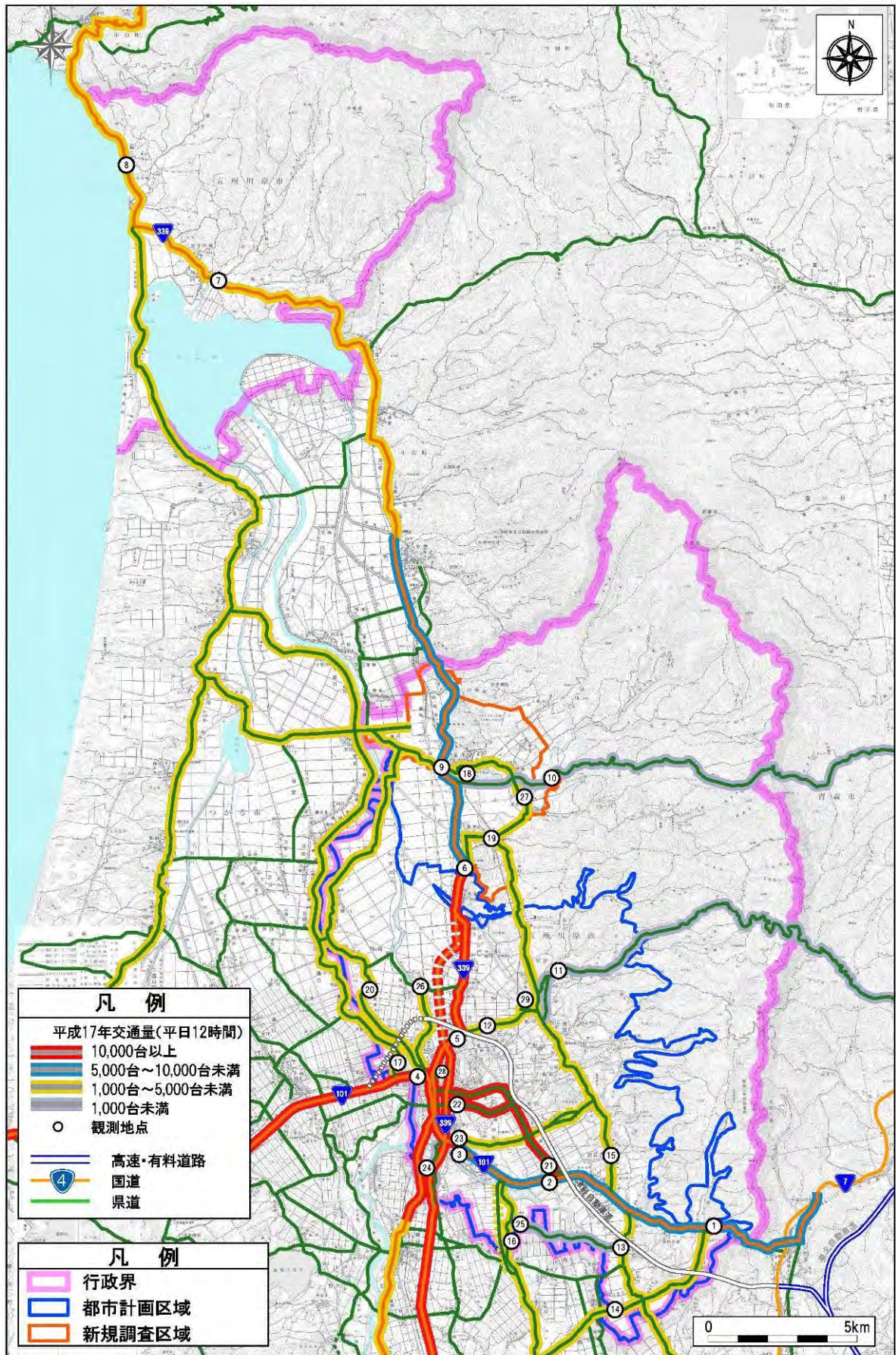


図 1-31 交通量の状況

(4) 都市計画道路の整備状況

本市では平成 23 年 8 月末現在、14 路線、37,740m の都市計画道路が都市計画決定されており、このうち、延長 25,387m、全延長の約 67%が整備済みです。

また、14 路線のうち、5 路線が全線整備済みとなっています。

表 1-31 都市計画道路

名称		機能分類	道路種別	幅員(m)	延長(m)	整備率(%)
番 号	路線名					
3・3・1	田川三ツ屋線	幹	市	22.0	6,110	100.0
3・3・2	石岡不魚住線	幹	主・市	22.0	1,600	100.0
3・4・1	大町寺町線	幹	国・市	15.0	730	68.5
3・4・2	一ツ谷線	幹	市	16.0	290	100.0
3・4・3	漆川岩木町線	幹	市	16.0	2,110	60.6
3・4・4	姥范太刀打線	幹	市	17.0	3,850	14.8
3・4・6	栄町尻無線	幹	国	15.0	3,750	88.8
3・5・1	漆川錦町線	幹	市	12.0	2,660	45.5
3・5・2	湊寺町線	幹	市	15.0	1,810	70.2
3・5・3	唐笠柳田川線	幹	一・市	12.0	4,950	28.5
3・5・4	湊烏森線	幹	市	12.0	1,280	100.0
3・5・5	広田新宮町線	幹	国・一	15.0	5,650	69.9
3・6・1	上平井町下平井町線	幹	市	11.0	730	100.0
3・6・2	元町吹畑線	幹	一・市	11.0	2,220	83.8
計				14路線	37,740	67.3

※ 資料：青森県の都市計画（24 年 3 月 31 日現在）

表 1-32 駅前広場

名称	鉄道の名称	駅の名称	計画面積 (m^2)	供用面積 (m^2)	供用率 (%)
3・4・1 大町寺町線	五能線	五所川原駅	3,000	1,200	40.0
	津軽鉄道	津軽五所川原駅			

※ 資料：青森県の都市計画（24 年 3 月 31 日現在）

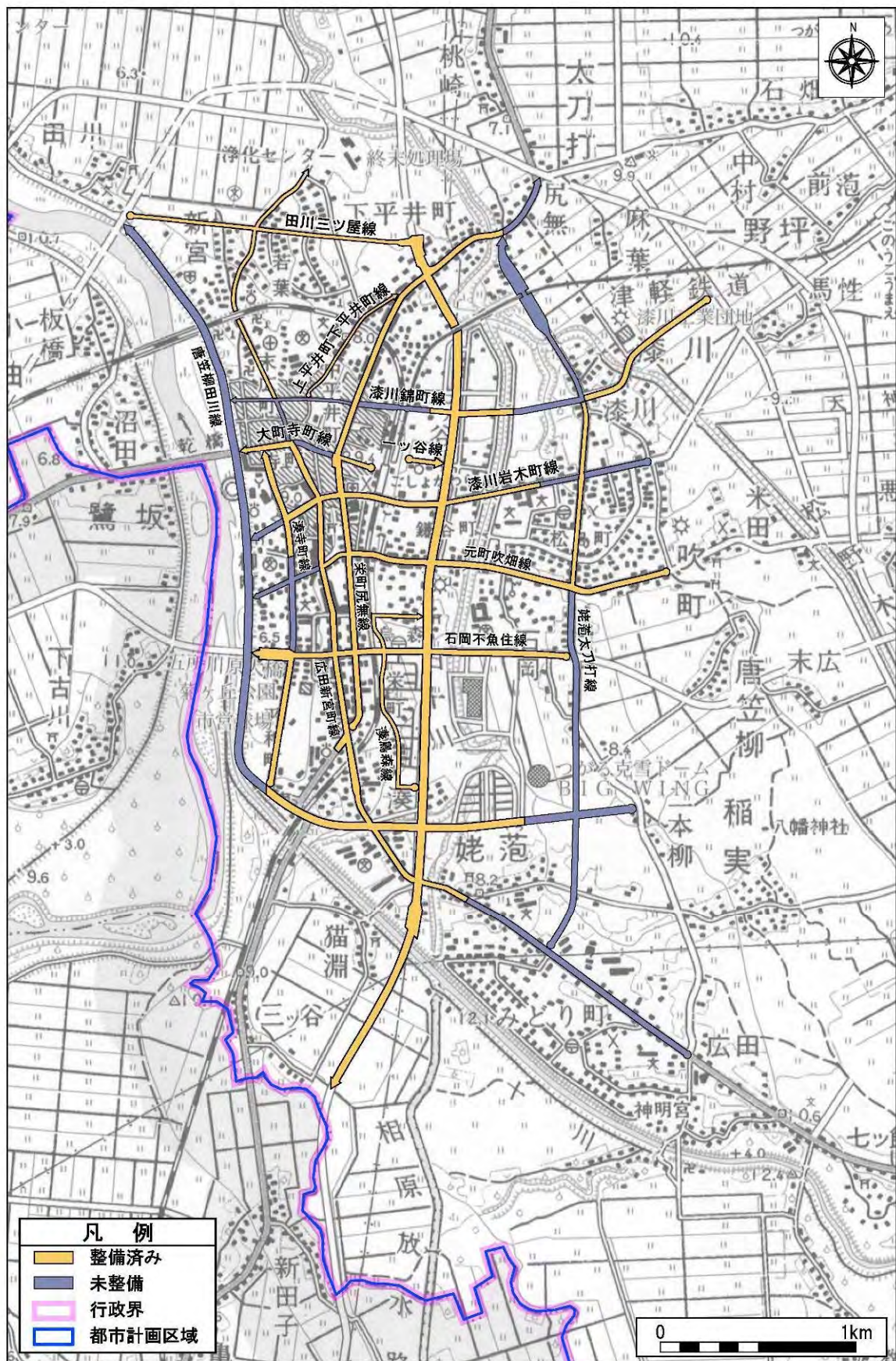


図 1-32 都市計画道路整備状況

5-2. 公園・緑地等

本市においては、供用開始された都市公園^{*}は 22 箇所、133.23ha で、市民 1 人あたりの面積は約 22.8 m²となっており、用途地域（市街地）内においては 15 箇所、16.5ha が供用開始され、用途地域（市街地）内人口 1 人当たりの面積は約 7.2 m²となっています。

また、この他にまだ未整備の公園が 1 箇所あり、市全体においては 23 箇所が都市公園として計画されています。

表 1-33 都市公園・緑地

No.	種別	名称		所在地	面積(ha)	開設
		番号	公園名			
1	街区	2・2・1	柳町児童公園	字柳町	0.75	0.75
2		2・2・2	平和町児童公園	字蓮沼	0.08	0.08
3		2・2・3	ひまわり児童公園	字幾世森	0.10	0.10
4		2・2・4	松島団地児童公園	松島町7丁目	0.65	0.65
5		2・2・5	ひとつや児童公園	字一ツ谷	0.50	0.50
6		2・2・6	ふじまき児童公園	字一ツ谷	0.45	0.45
7		2・2・7	かまや児童公園	字鎌谷町	0.26	0.26
8		2・2・8	とがわ児童公園	字鎌谷町	0.35	0.35
9		2・2・9	ひなた児童公園	字一ツ谷	0.18	0.18
10		2・2・10	ひがし児童公園	字一ツ谷	0.22	—
11		2・2・11	ふじうら児童公園	みどり町8丁目	0.24	0.24
12		2・2・12	ふなはし児童公園	みどり町3丁目	0.24	0.24
13			都市計画決定以外の都市公園 みずとみどりの小公園 字新町		—	0.23
14	近隣	3・3・1	やなぎぬま近隣公園	みどり町7丁目	1.00	1.00
15		3・3・2	北部公園	字幾世森	2.20	2.20
16	総合	5・5・1	狼野長根公園	大字持子沢字隠川	32.80	32.80
17	運動	6・5・1	五所川原運動公園	大字飯詰字孤野	13.00	13.00
18		6・5・2	菊ヶ丘運動公園	字不魚住	13.00	11.20
19	特風	7・5・1	津軽フラワーセンター	大字神山字殊ノ峯	18.00	18.00
20	都市緑地	1	岩木川河川公園	岩木川河川敷	170.00	45.50
21			都市計画決定以外の都市公園 不動公園 大字飯詰字影日沢		—	2.23
22	緑道		都市計画決定以外の都市公園 松島町緑地 松島町2丁目、7丁目		—	0.27
23	墓園	1	長者森平和公園	大字金山字千代鶴	23.40	3.00
計					277.42	133.23

※ 資料：青森県の都市計画（24 年 3 月 31 日現在）
五所川原市ホームページ（公園一覧）

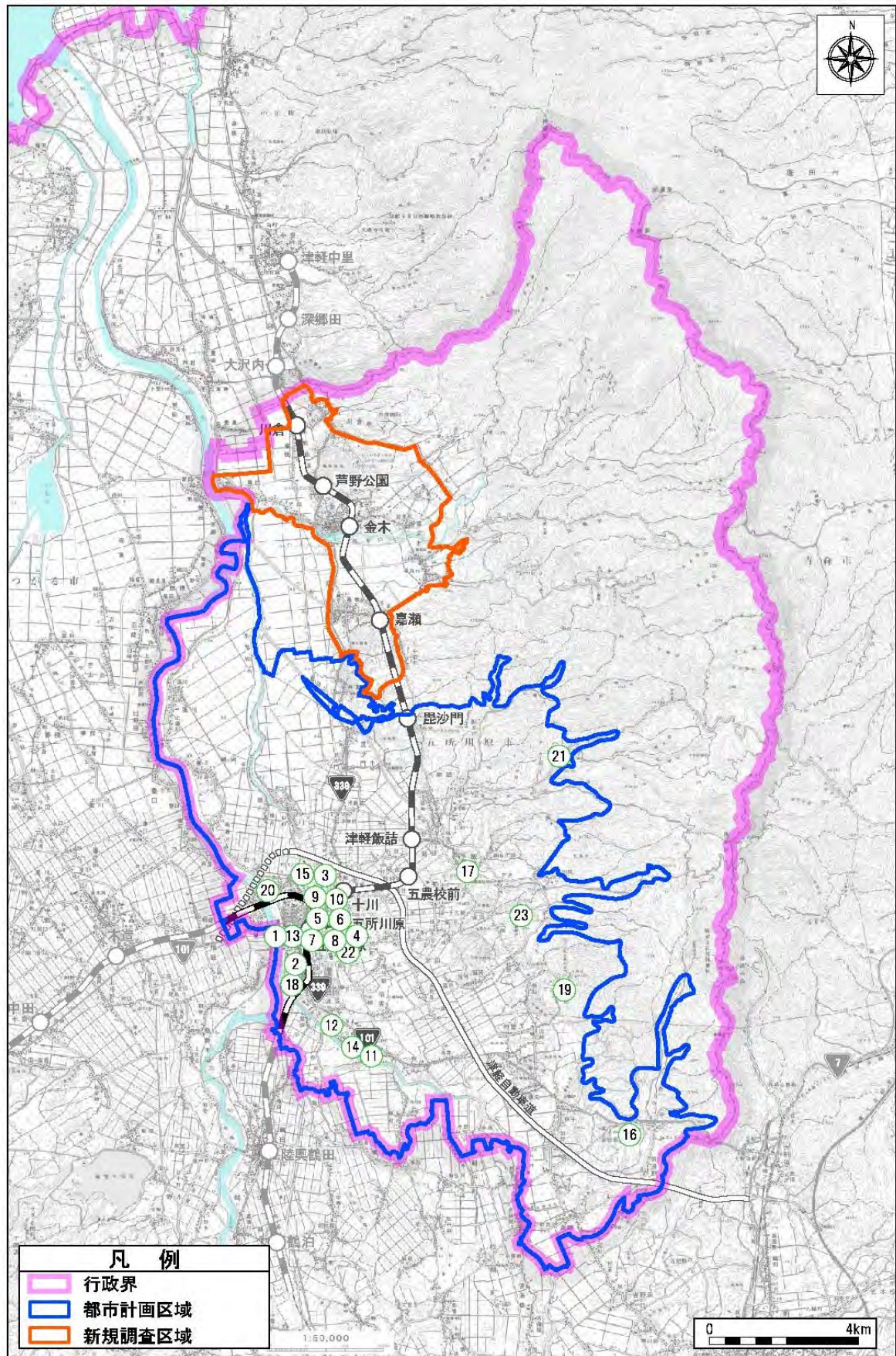


図 1-33 都市計画公園・緑地整備状況

5-3. 上下水道

本市の公共下水道は、五所川原処理区が昭和 59 年より供用開始され、普及率は約 42% となっており、相内処理区は平成 15 年より供用開始され、普及率は約 38% となっています。このほか、農村集落排水事業が 3 箇所、漁業集落排水事業が 1 箇所で行われ、それぞれ 2,519 人と 723 人の計 3,242 人をカバーしているほか、浄化槽処理により 5,377 人をカバーしています。

また、上水道は計画人口 55 千人に対し約 45 千人に普及しており、約 82% の普及率となっています。

表 1-34 下水道整備状況

事業名	処理区	全体計画		整備状況		普及率	共用開始年度
		処理面積 (ha)	処理人口 (千人)	整備面積 (ha)	処理区域内 人口(千人)		
公共下水道事業	五所川原処理区	735.0	23.0	475.5	20.2	42.2%	S59.4
公共下水道事業	相内処理区	67.0	1.3	67.0	1.0	37.6%	H15.3

表 1-35 集落排水整備状況

事業名	処理区	事業計画		排水区域		既整備 面積率
		面積(ha)	人口(人)	面積(ha)	人口(人)	
農業集落排水事業	藻川処理区	51.0	1,400	51.0	971	100%
農業集落排水事業	梅田処理区	63.0	1,000	63.0	784	100%
農業集落排水事業	蒔田処理区	53.6	1,030	53.6	764	100%
漁業集落排水事業	十三処理区	55.0	1,580	55.0	723	100%

表 1-36 浄化槽整備状況

区分	使用開始 済み人口	使用開始 済基数	住宅用途以外 の浄化槽	
	(人)	(基)	(人)	(基)
五所川原地区	5,040	1,149	－	177
金木地区	329	75	－	47
市浦地区	8	2	－	7
計	5,377	1,226	－	231

表 1-37 上水道整備状況

種 別	事業者・地区	計画 給水人口 (人)	現在 給水人口 (人)	計画1日最大 給水量 (m ³ /日)	現在 施設能力 (m ³ /日)	1日最大 給水量(実績) (m ³ /日)	一人1日最大 給水量(実績) (m ³ /日)	原 水 の 浄 水 施 設 種 別 の 種 別
上水道	五所川原市	55,000	45,074	33,680	24,845	16,249	0.360	上水受水 ダム直接 表流 急速濾過

※ 資料：水道・下水道課資料（平成 23 年 4 月 1 日現在）

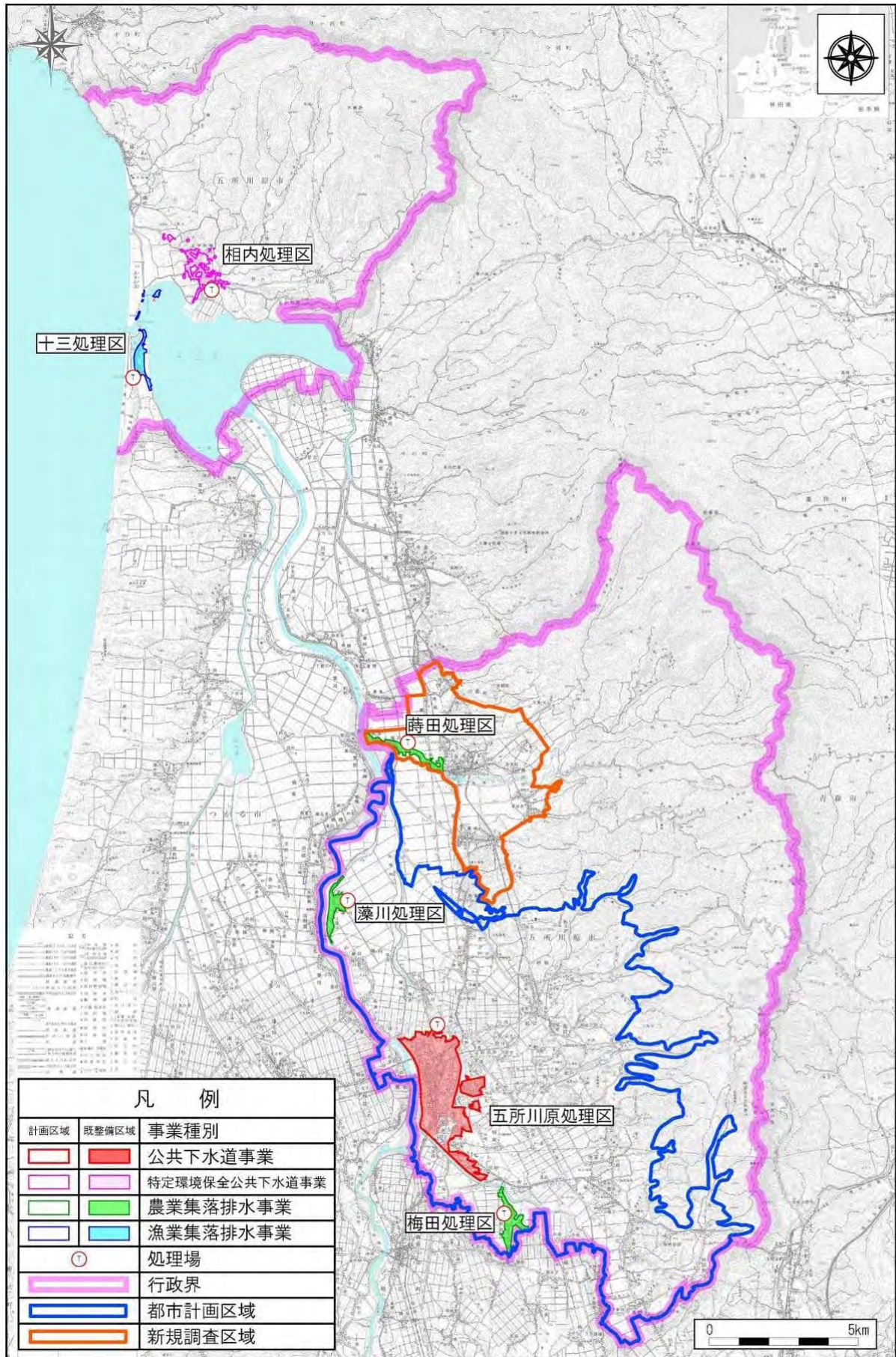


図 1-34 下水道整備状況

5-4. 公共公益施設

本市の主な公共公益施設としては、官公署等施設が 29 箇所、医療・福祉施設が 34 箇所、文化・教育施設が 38 箇所、警察・消防施設が 14 箇所、スポーツ・レクリエーション施設が 24 箇所、その他の公共施設 137 箇所があります。

表 1-38-1 公共公益施設

種別	No.	名称	位置
官公署等	1	五所川原市役所	字岩木町12
	2	金木総合支所	金木町朝日山319-1
	3	市浦総合支所	相内349-1
	4	青森地方裁判所五所川原支部	字元町54
	5	青森地方法務局五所川原支局	大字唐笠柳字藤巻507-10
	6	飯詰コミュニティセンター(防雪センター)	大字飯詰字福泉167-1
	7	東北森林管理局津軽森林管理署金木支署	金木町芦野200-498
	8	津軽森林管理署金木支署飯詰森林事務所	大字飯詰字影日沢219-2
	9	スノーステーション(土木課現場事務所)	大字金山字竹崎211-1
	10	青森地方検察庁五所川原区検察庁	大字唐笠柳字藤巻507-5
	11	五所川原合同庁舎	字栄町10
	12	五所川原税務署	大字唐笠柳字藤巻507-5
	13	五所川原労働基準監督署	大字唐笠柳字藤巻507-5
	14	東北地方整備局青森河川国道事務所五所川原出張所	字岩木町10
	15	東北農政局青森統計情報事務所	大字唐笠柳字藤巻507-5
	16	不動公園管理事務所	大字飯詰字影日沢1107-1
	17	公園管理課	字柳町57-7
	18	上下水道部	字不魚住61-1
	19	五所川原市浄化センター	字幾世森237-1
	20	梅田地区浄化センター	大字梅田字福浦55
	21	藻川地区浄化センター	大字藻川字村崎992
	22	蒔田地区浄化センター	金木町蒔田米崎167-2
	23	相内地区浄化センター	相内実取423-2
	24	十三地区浄化センター	十三通行道116-5
	25	松島汚水ポンプ場	松島町三丁目4
	26	学校給食センター	松島町三丁目6
	27	浄水場	大字飯詰字影日沢231-157
	28	工業用水道センター	大字毘沙門字上熊石1-281
	29	青森県西北地域県民局地域整備部飯詰ダム管理事務所	大字飯詰字影日沢842-2
医療・福祉施設	1	医療法人白生会胃腸病院	字上平井町82-4
	2	健生五所川原診療所	字一ツ谷508-7
	3	西北中央病院	字布屋町41
	4	医療法人守生会中村整形外科医院	字一ツ谷508-12
	5	医療法人社団清泉会布施病院	字芭蕉18-4
	6	かなぎ病院	金木町菅原19
	7	市浦医科診療所	相内273
	8	保健センター五所川原	字新町33-1
	9	保健センター金木	金木町朝日山319-1
	10	保健センター市浦	相内273
	11	ふれあいハウスかいどう	大字金山字泉田19
	12	ふれあいハウス杉の子	大字羽野木沢字隈無14
	13	ふれあいハウスつづじヶ丘	大字神山字山越5-2
	14	ふれあいハウス松ヶ丘	大字松野木字花笠93-16
	15	ふれあいハウスいくじ	大字毘沙門字中熊石254-1
	16	農村婦人の家	大字小曲字豊里176
	17	働く婦人の家	字新町33-1
	18	勤労青少年ホーム	字栄町20-1
	19	勤労者体育センター(五所川原運動公園)	大字飯詰字狐野171-2
	20	地域福祉センター	字幾世森24-38
	21	金木中央老人福祉センター	金木町川倉七ヶ野426-11
	22	金木老人福祉センター	金木町芦野336-1
	23	喜良市老人福祉センター	金木町喜良市坂本476
	24	嘉瀬老人福祉センター	金木町嘉瀬端山崎35-40
	25	市浦老人生きがいセンター	脇元赤川113-1
	26	養護老人ホームくるみ園	字幾世森165-1
	27	老人保健施設緑風苑	大字金山字竹崎254
	28	特別養護老人ホーム青山荘	大字金山字盛山42-8
	29	特別養護老人ホームあかね荘	大字前田野目字長峰112-2
	30	青松園	大字金山字千代鶴142
	31	金木生活支援ハウス	金木町川倉七ヶ野426-11
	32	市浦生活支援ハウス	相内321
	33	森の家	若葉一丁目10-40
	34	市浦アトム保育園	相内258

表 1-38-2 公共公益施設

種別	No.	名称	位置
文化・教育施設	1	青森職業能力開発短期大学校	大字飯詰字狐野171-2
	2	県立五所川原工業高等学校	大字湊字船越192
	3	県立五所川原高等学校	字中平井町3-3
	4	県立五所川原農林高等学校	大字飯詰字狐野12-37
	5	県立金木高等学校	金木町芦野200-403
	6	金木高等学校市浦分校	磯松赤川3-42
	7	私立五所川原第一高等学校	字元町42
	8	私立五所川原商業高等学校	大字唐笠柳字藤巻80
	9	市立五所川原第一中学校	松島町3丁目-1
	10	市立五所川原第二中学校	大字羽野木沢字隈無179
	11	市立五所川原第三中学校	大字広田字藤浦105-1
	12	市立五所川原第四中学校	大字沖飯詰字男鹿274-1
	13	市立金木中学校	金木町芦野84-9
	14	市立市浦中学校	相内岩井81
	15	市立五所川原小学校	大字新宮字岡田161
	16	市立五所川原南小学校	字蓮沼2
	17	市立栄小学校	大字姥菟字船橋156-2
	18	市立三輪小学校	大字七ツ館字虫流6-5
	19	市立三好小学校	大字鶴ヶ岡字唐橋25-2
	20	市立東峰小学校	大字神山字山越1-26
	21	市立松島小学校	大字米田字ハツ橋8
	22	市立中央小学校	松島町二丁目94
	23	市立いづみ小学校	大字飯詰字石田184
	24	市立金木小学校	金木町芦野84-54
	25	市立嘉瀬小学校	金木町嘉瀬端山崎269
	26	市立喜良市小学校	金木町喜良市千苅148
	27	市立市浦小学校	相内岩井85
	28	市民学習情報センター	字一ツ谷503-5
	29	市立図書館	字栄町119
	30	伊藤忠吉記念図書館	金木町芦野345-12
	31	五所川原市立図書館市浦分館	相内349-1
	32	歴史民族資料館	大字湊字千鳥102-1
	33	金木歴史民俗資料館	金木町芦野234-1
	34	市浦歴史民俗資料館	十三土佐1-298
	35	立佞武多の館	字大町21番地1
	36	五所川原職業能力開発校	字一ツ谷503-5
警察・消防	1	五所川原警察署	字栄町6-1
	2	五所川原警察署金木分庁舎	金木町芦野216-89
	3	駅前交番	字東町9-5
	4	エルムの街交番	大字唐笠柳字藤巻517-1
	5	金木交番	金木町芦野216-89(金木分庁舎内)
	6	西部駐在所	大字川山字森内37-8
	7	飯詰駐在所	大字飯詰字福泉160
	8	七和駐在所	大字羽野木沢字隈無32
	9	喜良市駐在所	金木町喜良市千苅207
	10	相内駐在所	相内岩井81-106
	11	五所川原消防署	字岩木町12
	12	五所川原消防署東分署	大字原子字山元42-2
	13	金木消防署	金木町菅原367-1
	14	市浦消防署	相内246
スポーツ・レクリエーション施設	1	県立梵珠少年自然の家	大字神山字殊ノ峰117-62
	2	ふるさと交流園民センター(オルテンシア)	字幾世森24-15
	3	市民総合体育館	字栄町20-1
	4	市営球場	字不魚住10-1
	5	市営庭球場	字不魚住10-1
	6	市営ゲートボール場	岩木川河川敷
	7	球技場	岩木川河川敷
	8	市民プール	字幾世森192-1
	9	五所川原市B&G海洋センター金木(プール)	金木町芦野84-999
	10	五所川原市B&G海洋センター市浦(体育館)	相内岩井81-385
	11	五所川原市B&G海洋センター市浦(艇庫)	相内岩井81-386
	12	嘉瀬スキー場	金木町嘉瀬上端山崎115-3
	13	金木運動公園	金木町川倉七ヶ野84-959
	14	つがる克雪ドーム	大字唐笠柳字藤巻495-2
	15	弓道場	大字唐笠柳字藤巻507-1
	16	勤労者総合スポーツ施設	大字唐笠柳字藤巻507-6
	17	金木相撲場	金木町芦野234-1
	18	金木観光物産館	金木町朝日山195-2
	19	津軽三味線会館	金木町朝日山189-3
	20	金木オートキャンプ場ふれあい体験農園	金木町川倉七ヶ野84-455、84-476
	21	金木運動公園ふれあい体験農園	金木町川倉七ヶ野84-1012
	22	し〜うらんど海遊館	磯松山の井115-126
	23	十三湖マリーナ	十三五月女港地先
	24	脇元海辺ふれあいゾーン	脇元野脇地内

表 1-38-3 公共公益施設

種別	No.	名称	位置
その他の施設	1	五所川原郵便局	字旭町53-1
	2	五所川原北郵便局	字下平井町188-2
	3	五所川原田町郵便局	中央一丁目114
	4	梅沢郵便局	大字梅田字平野74-3
	5	長橋郵便局	大字野里字牧ノ原55-25
	6	七和郵便局	大字原子字山元55-2
	7	飯詰郵便局	大字飯詰字福泉161-2
	8	毘沙門簡易郵便局	大字毘沙門字中熊石254
	9	松島郵便局	松島町二丁目89-3
	10	高野郵便局	大字高野字柳田245-2
	11	山村広場	相内岩井81-87
	12	中央公民館	字一ツ谷504-1
	13	金木公民館	金木町菅原367-1
	14	コミュニティセンター栄	みどり町4-130
	15	コミュニティセンター七和	大字羽野木沢字隈無13
	16	コミュニティセンター中川	大字川山字森内395-1
	17	コミュニティセンター松島	大字金山字竹崎48-10
	18	コミュニティセンター長橋	大字神山字鷲野34-3
	19	コミュニティセンター飯詰	大字飯詰字福泉166-1
	20	コミュニティセンター三好	大字鶴ヶ岡字鎌田281-3
	21	コミュニティ防災センター	字鎌谷町16
	22	毘沙門・長富コミュニティセンター	大字毘沙門字熊石30-2
	23	しぎしまコミュニティセンター	字敷島町36-28
	24	梅沢コミュニティセンター	大字梅田字燕口118-3
	25	富士見コミュニティセンター	字蓮沼14
	26	中央コミュニティセンター	字上平井町16
	27	みなとコミュニティセンター	大字湊字千鳥90
	28	北部コミュニティセンター	字幾世森51-1
	29	松島会館	松島町二丁目89
	30	嘉瀬コミュニティセンター	金木町嘉瀬端山崎76-1
	31	金木東部地区コミュニティセンター	金木町芦野318
	32	川倉ふれあいセンター	金木町川倉米出100-1
	33	市浦コミュニティセンター	相内岩井81-384
	34	十三コミュニティセンター	十三深津187-1
	35	もや会館	磯松山の井115-138
	36	浅井集会所	大字七ツ館字柏枝10-13
	37	旭町集会所	字旭町49-8
	38	幾島町集会所	字幾島町22-3
	39	石田坂集会所	大字戸沢字前田番外地
	40	稲実集会所	大字稲実字開野265
	41	姥范集会所	大字姥范字船橋32-1
	42	大開集会所	大字松野木字雲掛15-2
	43	沖飯詰集会所	大字沖飯詰字鴻ノ巣348-2
	44	金山集会所	大字金山字泉田19
	45	唐笠柳集会所	大字唐笠柳字皆瀬49-3
	46	共栄集会所	大字毘沙門字上熊石28-1
	47	桜田集会所	大字沖飯詰字鴻ノ巣282-2
	48	サンプラザはるにれ	大字姥范字船橋52-215
	49	下岩崎集会所	大字下岩崎字尾花原31-9
	50	新宮集会所	字新宮町84-3
	51	杉派立集会所	大字神山字山越5-1
	52	高瀬集会所	大字高瀬字一本柳118-3
	53	田川集会所	大字田川字藪里34
	54	種井集会所	大字種井字鎧潟31
	55	田町栄町コミュニティ消防センター	字田町1-1
	56	長富コミュニティ消防センター	大字長富字鎧石167-4
	57	吹畑コミュニティ消防センター	松島町五丁目7-2
	58	福山コミュニティ消防センター	大字福山字広富165-3
	59	水野尾コミュニティ消防センター	大字水野尾字宮井36-3
	60	三ツ谷コミュニティ消防センター	大字姥范字桜木209-3
	61	藻川コミュニティ消防センター	大字藻川字中島2-1
	62	持子沢コミュニティ消防センター	大字持子沢字笠野前405
	63	芦野コミュニティ消防センター	金木町芦野84-76
	64	嘉瀬西部コミュニティ消防センター	金木町嘉瀬雲雀野212-3
	65	金木西部コミュニティ消防センター	金木町沢部370
	66	神原コミュニティ消防センター	金木町神原小泉126-77
	67	更生研修センター	金木町喜良市坂本56-206
	68	大東ヶ丘コミュニティ消防センター	金木町川倉七ヶ野84-637
	69	中柏木コミュニティ消防センター	金木町中柏木鎧石141-1
	70	双葉町コミュニティ消防センター	金木町喜良市千苅248-50
	71	蒔田コミュニティ消防センター	金木町沢部396-1
	72	見崎町コミュニティ消防センター	金木町芦野234-18

表 1-38-4 公共公益施設

種別	No.	名称	位置
その他の施設	73	湯の川高齢者コミュニティセンター	金木町川倉七夕野84-498
	74	十川集会所	大字漆川字鍋懸83
	75	戸沢集会所	大字戸沢字玉清水208-2
	76	豊成集会所	大字豊成字田子ノ浦203
	77	中泉集会所	大字中泉字松枝88
	78	七ツ館集会所	大字七ツ館字虫流95
	79	原子集会所	大字原子字山元42-7
	80	毘沙門集会所	大字毘沙門字東中久保6-10
	81	広田集会所	大字広田字榊森24-2
	82	福岡集会所	大字松野木字福泉53
	83	前田野目集会所	大字前田野目字長峰28
	84	元町集会所	字元町124-1
	85	若山集会所	大字松野木字影日83-3
	86	旭ヶ丘集会所	金木町芦野365-48
	87	芦野集会所	金木町芦野234-186
	88	嘉瀬集会所	金木町嘉瀬雲雀野109-1
	89	川倉集会所	金木町川倉宇田野2
	90	沢部集会所	金木町沢部205-2
	91	雲雀野集会所	金木町嘉瀬雲雀野667番地361
	92	藤枝集会所	金木町藤枝東田430番地1
	93	広域新農業センター	大字毘沙門字上熊石1-13
	94	高野文化センター	大字高野字広野43
	95	旧平山家住宅	大字湊字千鳥144-1
	96	旧津島家住宅	金木町朝日山412-1
	97	旧西沢家住宅	金木町朝日山441-51
	98	楠美家住宅	大字持子沢字隠川695-4
	99	山道町こども広場	金木町芦野84-135
	100	金木交流プラザ	金木町芦野90-1
	101	磯松集会所	磯松磯野186-1
	102	太田集会所	太田山の井597
	103	桂川集会所	相内桂川288
	104	木材工芸センター	相内岩井81-1
	105	農水産加工センター	十三羽黒崎133-24
	106	長橋地区農産物加工センター	大字福山字広富165-21
	107	毘沙門農村公園	大字毘沙門字中熊石178-5
	108	川山農村公園	大字川山字森内395-1
	109	堺野沢ため池公園	大字松野木字裏掛40-25
	110	蒔田農村公園	金木町蒔田桑元101-2
	111	川倉農村公園	金木町川倉林下119
	112	藤枝農村公園	金木町藤枝東田430-1
	113	更生農村公園	金木町喜良市坂本56-206
	114	喜良市農村公園	金木町喜良市干苅208
	115	大東ヶ丘農村公園	金木町川倉七夕野84-637
	116	嘉瀬農村公園	金木町嘉瀬雲雀野351
	117	金木東部農村公園	金木町芦野318
	118	大沼公園	相内岩井81-1
	119	十三漁村公園	十三深津184
	120	ふれあい牧場研修棟	大字毘沙門字上熊石1-158
	121	畜産展示室	大字毘沙門字上熊石1-160
	122	肉製品加工室	大字毘沙門字上熊石1-160
	123	ウインターガーデン	大字毘沙門字上熊石1-160
	124	特産品加工センター	相内実取287-1057
	125	総合交流促進センター	相内実取287-1058
	126	産業振興センター	相内岩井81-87
	127	金木自然休養村管理センター	金木町芦野234-1
	128	市浦地域活性化センター	十三土佐1-298
	129	葬斎苑	大字金山字千代鶴27
	130	金木斎場	金木町芦野200-101
	131	市浦露草斎苑	相内岩井81-2
	132	ペット火葬場	大字藻川字村崎533-2
	133	玉清水牧場	大字戸沢字玉清水276
	134	毘沙門牧場	大字毘沙門字上熊石1-278
	135	基幹集落センター	相内岩井81-1
	136	上平井町駐車場	字上平井町92-1
	137	蒔田集会所	金木町蒔田桑元51-4

※ 資料：平成20年度 都市計画基礎調査
平成24年9月末現在 五所川原市調べ

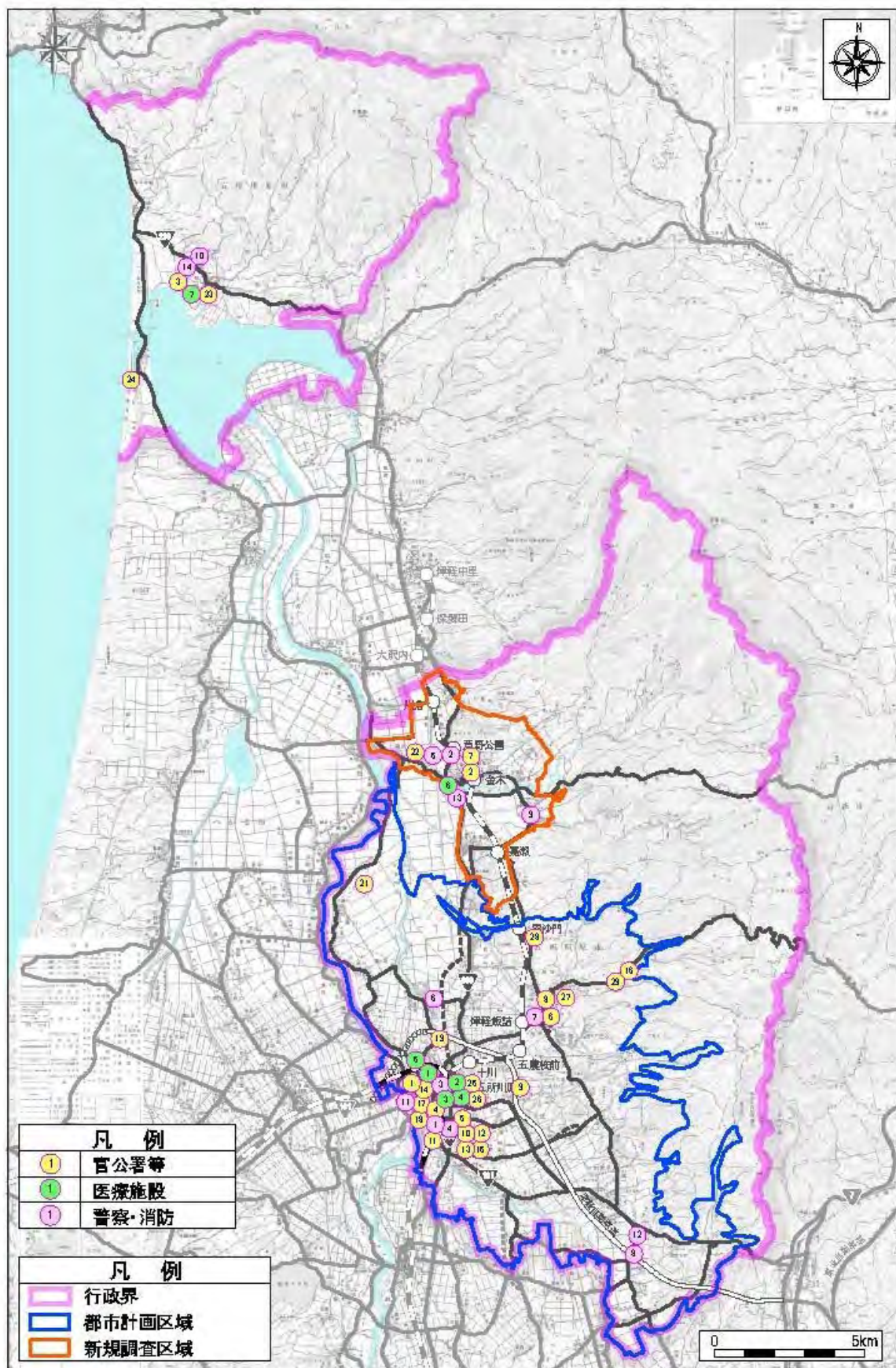


図 1-35 主な公共公益施設の整備状況

6. 関連上位計画

関連上位計画について以下に整理します。

これらの計画の中で本市は、西北地域の中心都市として位置づけられており、西北地域の各市町との相互補完による都市機能^{*}の維持が重要とされています。

また、奥津軽や西海岸、白神山地をはじめとする豊かな自然を活かした広域観光のネットワーク化や農・林・水産・観光業の6次産業化による地域産業の振興など、周辺市町との相互の連携・補完により持続可能な都市づくりを目指す拠点としての役割を担っています。

表 1-39 関連上位計画 1

名 称	青森県基本計画 未来への挑戦 ～情熱あふれるふるさと青森づくり～
策定主体	青森県
策定年次	平成 20 年度
計画期間	平成 21 年度～平成 25 年度
基本理念 (将来像)	「生活創造社会」 計画期間の5年間で取組を進めるべき4つの分野を設定しています。 ①産業・雇用分野（仕事づくりと所得の向上） ②安全・安心、健康分野（命と暮らしを守る） ③環境分野（低炭素・循環型社会の形成） ④教育、人づくり分野（生活創造社会の礎）
地域の位置づけ (西北地域)	地域の目指す姿：『食×観』じゃわめく西北地域 ○広域田園都市の形成 ○農林水産業の6次産業化 ○農・林・水・観クラスターの形成 ○保養地域としての発展 今後5年間の取組の展開方向と重点施策 ○農林水産業の「6次産業化」（1次×2次×3次産業）による仕事づくり ○2つの新幹線開業を見据えた「観光力」の強化 ○地域活性化のための産業基盤の強化 ○環境と産業が融合した資源循環型の地域づくり

表 1-40 関連上位計画 2

名 称	青森県都市計画基本方針（青森県都市計画マスタープラン第1部）
策定主体	青森県
策定年次	平成 22 年度
目標年次	平成 42 年度
基本理念	「生活創造社会の実現に向けた持続可能な都市」
4つの視点	1. にぎわいと活力のある都市づくり ○産業・雇用の創出・拡大 ○中心市街地の活性化 ○農山漁村部の活性化 2. 安心して住み続けられる都市づくり ○生活機能の充実 ○安全・安心の確保 3. 環境と共生する美しい都市づくり ○自然環境の保全 ○地球環境問題への対応 ○景観の保全・創出 4. 協働で育む都市づくり ○多様な主体の協働 ○人材の育成
都市全体のマネジメント	・ コンパクトな都市づくり ・ 優良な農地や身近な自然・緑地の保全
目標とする都市像	中規模都市（人口 5 万人規模） ① 市街地（市街化区域・用途地域） 地域の生活中心地として、利便性に優れた多様な機能をまちなか集積します。さらに地域固有の歴史や伝統、文化などアイデンティティ[*]に支えられた、住民が誇りと愛着の持てる市街地の形成をめざします。 ② 市街地周辺（市街化調整区域・白地地域[*]） 市街化を抑制すべき地域を明確にするとともに、適切な土地利用規制を図り、優良な農地や自然環境の保全をめざします。 ③ 都市・生活基盤など 近隣都市を含めた生活を支える鉄道や路線バスなどの公共交通の充実と維持・確保を図り、過度に自動車に依存しないまちの形成をめざします。
実現に向けた方策	1. 都市計画制度の運用方針 2. 景観づくりの方策 3. 協働で育む都市づくり

表 1-41 関連上位計画 3

名 称	圏域計画（青森県都市計画マスタープラン第2部）
策定主体	青森県
策定年次	平成22年度
目標年次	平成42年度
圏域の将来像	西北圏域 農・林・水・観が連動し、地域と文化を育む広域型の田園都市圏域
都市づくりの方針	（１）「豊かな自然の恩恵を受けた6次産業が展開する圏域」 （土地利用に関する視点） ○本県を代表する穀倉地帯である平野部の農地の保全 ○七里長浜港や青森テクノポリス工業団地漆川を核とする産業・流通拠点の形成 （２）「五所川原市を中心に連携した広域型田園都市圏域」 （土地利用に関する視点） ○五所川原市の中心市街地における商業などの活性化に資する市街地の再生 ○鱸ヶ沢町における医療・教育分野を中心とした補完的な都市機能の維持 ○木造、金木、中里、鶴田、板柳、深浦といった主要な市街地における五所川原市を補完する都市機能の維持 ○ある程度人口が集積している集落における生活機能の維持 （３）「世界に誇る自然環境がいきる持続的な圏域」 （土地利用に関する視点） ○平野部に広がる穀倉地帯の農地の保全と活用 ○主な視点場から眺めた、津軽平野と岩木山が織り成す眺望景観を保全する沿道土地利用の規制・誘導 ○斜陽館をはじめ県域内に残る伝統的景観建造物の保全
土地利用マネジメントのあり方	検討すべき項目 ○五所川原市金木地区は周囲が農地に囲まれた良好な環境の市街地を有しており、都市が備えるべき安全性や快適性・利便性を確保するため、都市計画区域の指定を検討します。 ○五所川原、金木、中里と連なる市街地における通勤・通学などの日常生活圏の一体性を鑑み、一体の都市として合理的な土地利用を誘導するため、五所川原広域農道（こめ米ロード）沿道について都市計画区域の拡大を検討します。 ○五所川原市の市街地南東部の非線引き都市計画区域白地地域では、農地の保全や周辺環境との調和の観点から、特定用途制限地域や地区計画などによる土地利用コントロールを推進します。

表 1-42 関連上位計画 4

名 称	五所川原都市計画区域の整備、開発及び保全の方針 (都市計画区域マスタープラン)
策定主体	青森県
策定年次	平成 22 年
目標年次	平成 42 年
基本理念 (将来像)	『活力ある・明るく住みよい豊かなまち』 ● 安心して便利に暮らせる都市づくり ● 市街地の周囲に広がる農地の保全と、歴史と自然を生かした都市環境の形成 ● 活力ある産業の育成 ● 西北圏域の中心都市としての都市機能の充実と広域交通ネットワークの形成
地域ごとの 市街地像	① 市街地ゾーン 本区域の市街地は、五所川原駅周辺から岩木川に至る商業・業務地、その周辺の住宅地及び北東部の青森テクノポリスハイテク工業団地漆川などから構成される。 今後は、鰯ヶ沢方面への延伸が計画されている津軽自動車道のインパクトを適切に受け止め、無秩序な市街化を抑制しつつ、道路、公園、下水道等の都市基盤施設の整備を進め、コンパクトで効率的な市街地の維持・形成を図る。 市街地北部のふるさと交流圏民センター周辺をコミュニティ拠点[*]として位置づけ、機能強化や環境整備を行うとともに、市街地南部の五所川原中央青果市場では津軽自動車道等の広域交通網をいかした機能更新を図る。 また、隣接して流れる岩木川などを活かしながら、潤いのある市街地環境の形成を目指す。 ② 田園ゾーン 市街地を取り囲む農地、集落地については、良好な生産環境やのどかな田園景観等の保全を図るとともに、集落地の環境整備などを進めていく。 ③ 樹林地ゾーン 区域東側の緑豊かな樹林地については、保全を基本としながらも、市民の憩い、自然的なレクリエーションの場などとして活用を図っていく。 ④ その他拠点など 都市としての魅力や利便性を高めていくため、次のような拠点などを配置し、その機能の充実・強化を進めていく。 ・市街地内及び隣接する菊ヶ丘運動公園や岩木川河川公園を緑の拠点ゾーンとして位置づけ、市民の多様なレクリエーション需要に応える公園機能の拡充を図る。 ・東部の山林部に位置する狼野長根公園をはじめとする各公園等については、市民利用に加えて津軽観光の拠点としての役割を担う緑の拠点ゾーンとして、機能拡充や環境整備を図る。

表 1-43 関連上位計画 5

名 称	五所川原市総合計画
策定主体	五所川原市
策定年次	平成 19 年（前期） 平成 23 年（後期）
目標年次	平成 26 年
基本理念 （将来像）	「活力ある・明るく住みよい豊かなまち」
まちづくりの 目標	○ 地域活力の創造 ○ 安全安心の構築 ○ 参画型社会の実践
重点推進 プロジェクト （後 期）	その 1：安全安心のまちづくり重点推進プロジェクト ◎ 堰の整備 ◎ 津軽自動車道建設促進に向けた要望活動 ◎ 自治体病院機能再編成の推進 ◎ 除排雪事業 ◎ がん・循環器疾患・糖尿病予防知識の普及と定期的な各種検診サービスの提供 その 2：活力ある産業づくり重点推進プロジェクト ◎ 認定農業者支援 ◎ 広域観光の振興 ◎ 商品開発支援 ◎ 雇用の場の確保 ◎ 地域に根ざす企業の誘致 ◎ 地域資源の活用 ◎ 観光情報の発信 その 3：未来を築く子どもたちの育成重点推進プロジェクト ◎ 地域での子育て支援 ◎ 学校教育指導の方針と重点の明確化 ◎ 子育て支援の充実 ◎ 学校施設整備 その 4：みんながいきいきと暮らせる福祉のまちづくり重点推進プロジェクト ◎ 高齢者の積極的な社会参加の支援 ◎ 認知症高齢者への施策推進 ◎ 高齢者の見守りの強化と虐待防止 ◎ 障害者福祉サービスの充実 その 5：環境にやさしいまちづくり重点推進プロジェクト ◎ ごみの減量 ◎ 自然環境の保全 ◎ 新エネルギー機器導入の検討及び体制構築 その 6：市民参画と協働のまちづくり重点推進プロジェクト ◎ 広聴活動の充実 ◎ 市民と行政の協働のための制度確立 その 7：持続可能な行財政運営重点推進プロジェクト ◎ 行財政システムの簡素・効率化 ◎ 計画的な財政運営